



東洋製罐グループ  
CSRレポート  
2019

 **東洋製罐グループホールディングス**

発行・連絡先 東洋製罐グループホールディングス株式会社 CSR部  
〒141-8627 東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング  
Tel. 03-4514-2303

東洋製罐グループのCSRに関するご意見・ご感想をお聞かせください。(下記のページは9月末公開予定です)

● CSRレポートアンケート <https://tskg-hd.com/csr/enquete/>

2019年9月発行

# ひらき、心ときめく

東洋製罐グループは、事業活動を通して社会課題の解決に貢献する。  
グループ全従業員は、日々の業務が社会への責任を担っていると認識し、活動する。  
これが、東洋製罐グループが目指すCSR経営です。  
「包みのテクノロジー」をベースに、「ひらき、心ときめく」価値を創造し、  
持続可能な社会の実現に貢献する企業を目指します。

## 編集方針

東洋製罐グループでは、持株会社体制のもと、「東洋製罐グループの経営思想」に基づきCSR経営を推進しています。

本レポートは、ステークホルダーの皆さまへ東洋製罐グループのCSRに対する考え方や活動を、わかりやすくお伝えすることを目的として作成しました。

私たちの具体的な動きがより皆さまに伝わるように、ESG（環境・社会・ガバナンス）の項目別に構成し、2018年度に実施したアクションを中心に紙面づくりをしています。本冊子に掲載されていない「方針・体制・データ」などの情報についてはWebサイトをご覧ください。

私たちは、ステークホルダーの皆さまとの誠実な対話とそこから始まる行動をCSRの基本姿勢としています。皆さまからのご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。

（下記のページは9月末公開予定です）

<https://tskg-hd.com/csr/>

## 基本報告

### 報告書の対象範囲

東洋製罐グループホールディングスを含む  
国内・海外グループ会社

### 対象期間

2018年4月1日～2019年6月30日

### 数値データ

2018年4月1日～2019年3月31日

### 発行

2019年9月（次回2020年9月発行予定）

### 参考にしたガイドライン

ISO26000（社会的責任に関する手引）

## 目次

編集方針	2
基本報告・目次	3
会社概要	4
あなたの周りに東洋製罐グループ	6
トップメッセージ	8
8つのマテリアリティの現状を真摯に捉え、 持続的な改革に取り組みます	
東洋製罐グループのCSR経営	10
<b>ENVIRONMENT (環境)</b>	
地球環境とのかかわり	12
<b>SOCIAL (社会)</b>	
品質保証	18
受賞実績	20
人権	22
従業員とともに	23
社会貢献活動	28
<b>GOVERNANCE (ガバナンス)</b>	
コーポレート・ガバナンス	30
コンプライアンス	32
リスクマネジメント	33
財務・決算	34
東洋製罐グループ関係会社	35

グループ各社の詳しい活動については、  
下記Webサイトをご覧ください。

東洋製罐株式会社：環境サイト

東洋鋼板株式会社：CSR

東罐興業株式会社：CSR

日本クロージャー株式会社：環境・社会活動

東洋ガラス株式会社：環境活動

メビウスパッケージング株式会社：環境への取り組み

東洋エアゾール工業株式会社：環境について

東罐マテリアル・テクノロジー株式会社：環境への取組



# 会社概要

## 東洋製罐グループホールディングス株式会社

創 立 1917年(大正6年)6月25日

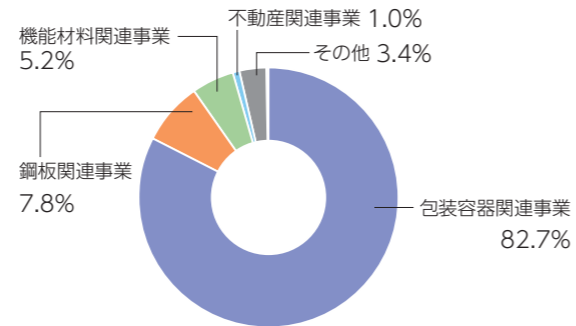
代 表 者 代表取締役社長 大塚 一男

資 本 金 110億9,460万円

本 社 〒141-8627  
東京都品川区東五反田2丁目18番1号  
大崎フォレストビルディング

従業員数 399名(連結18,938名) 2019年3月31日現在

事業種別売上高構成比



## 事業紹介

### 包装容器関連事業



缶詰用空缶やプラスチック製容器をはじめ、キャップ・ガラスびん・紙製容器・エアゾール製品など、日常生活を支える各種包装容器の製造販売を中心に事業を展開しています。

### 鋼板関連事業



缶用材料をはじめ、電気・電子部品用材料、自動車・産業機械部品用材料、建築・家電用材料など、暮らしのあらゆる場面で活躍する各種鋼板材料の製造販売を中心に事業を展開しています。

### 機能材料関連事業



磁気ディスク用アルミ基板・光学用機能フィルム・塗薬・顔料・ゲルコート・微量要素肥料など、多種多様な機能を備えた材料の製造販売を中心に事業を展開しています。

### 機械設備事業



容器製造用設備・充填巻締設備をはじめとする包装容器関連機械設備などの製造販売を中心に事業を展開しています。

### 不動産関連事業



オフィスビルおよび商業施設などの賃貸を中心に事業を展開しています。

### その他事業



自動車用プレス金型・機械器具・硬質合金および農業用資材製品などの製造販売、石油製品などの販売、損害保険代理業などの事業を展開しています。

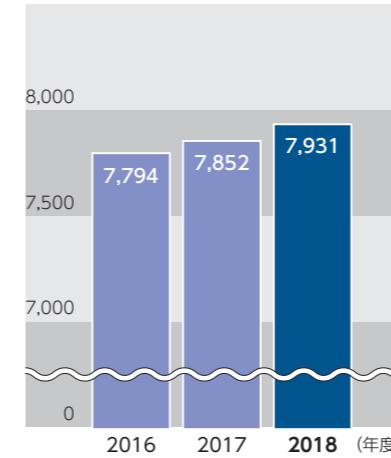
### 物流事業



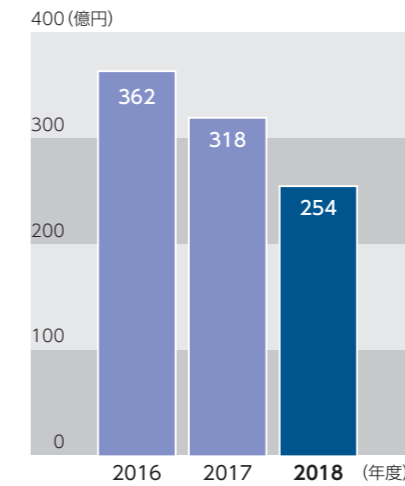
主にグループ会社向け貨物自動車運送や倉庫業などの事業を展開しています。

## データ(連結)

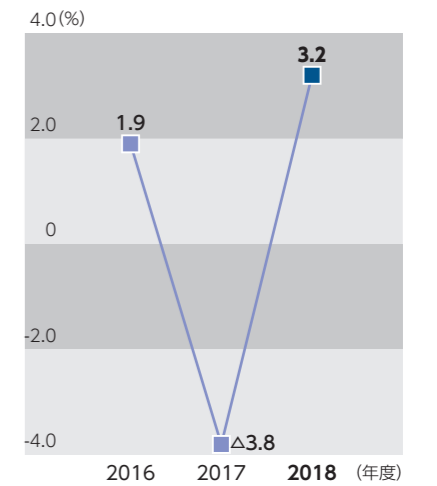
売上高  
8,500(億円)



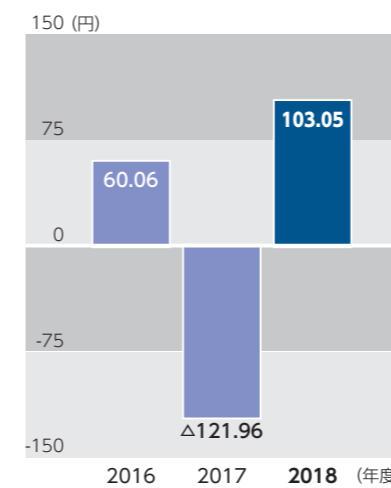
営業利益  
400(億円)



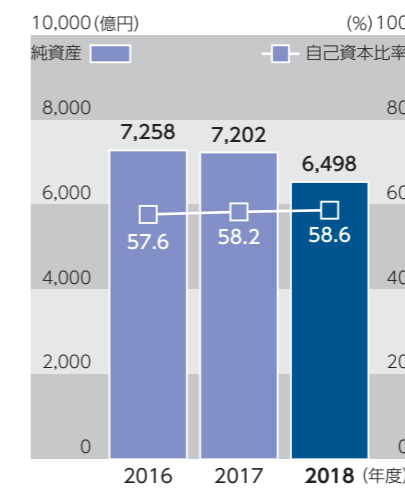
ROE  
4.0(%)



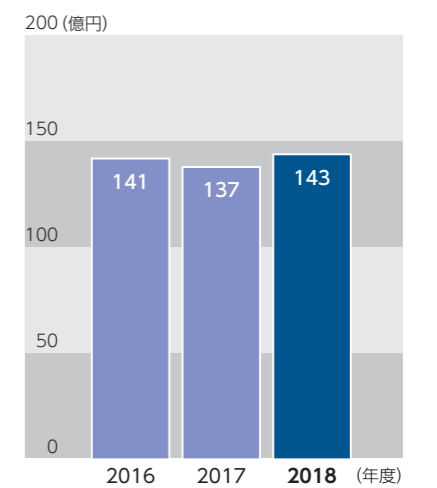
1株当たり当期純利益  
150(円)



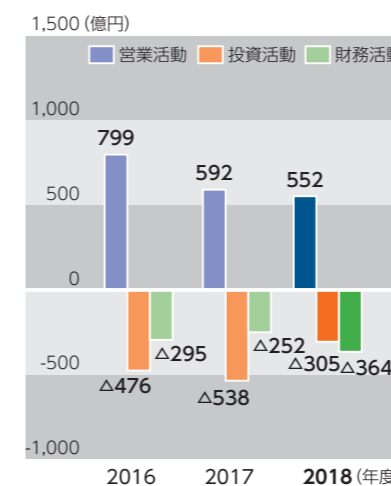
純資産・自己資本比率  
10,000(億円) (%) 100



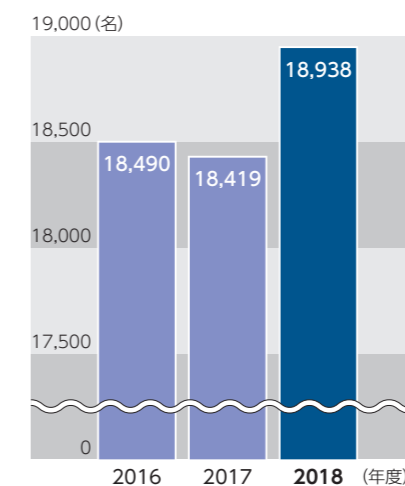
研究開発費  
200(億円)



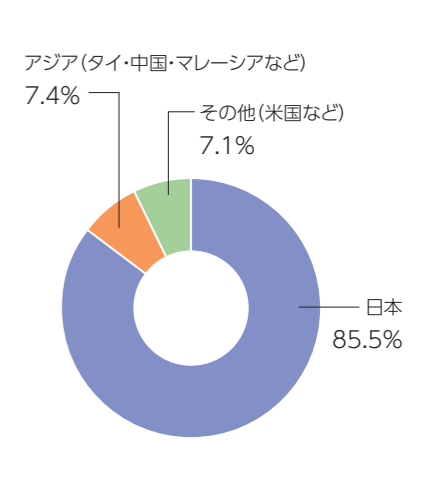
キャッシュフロー  
1,500(億円)



従業員数  
19,000(名)



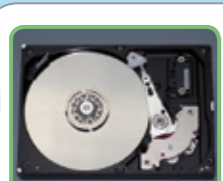
所在地別売上高構成比



※「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を当連結会計年度から適用しており、2016年度から2017年度については、当該表示方法の変更を反映した遡及修正後の数値を記載しております。

# あなたの周りに東洋製罐グループ

東洋製罐グループの製品は、日常の身近なシーンで活躍しています。  
安全・安心な品質と安定供給で皆さまの豊かな暮らしを支えています。



磁気ディスク用  
アルミ基板  
パソコンやサーバー、デ  
ジタル家電を中心に使  
用されています。



コップ・グラス



冷蔵庫扉材



食用油のボトル  
みそのカップ  
食品用の缶



食品用  
レトルトパウチ



米飯トレー



人造大理石キッチンカウンター



飲料用のびんとキャップ  
コーヒーのコップ



coffee



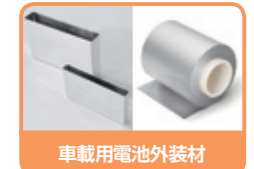
消臭剤の缶・充填



洗剤のボトル  
シャンプーのボトル・充填  
詰め替え用パウチ



ハイブリッドカー用の  
電池部品材



車載用電池外装材



ダッシュボード向けの  
着色剤  
自動車の内装などに使用し  
ている樹脂を着色します。



スタック型タンブラー



ジャム・牛乳・お酒のびん  
とキャップ



アイスやヨーグルトのコップ



缶・びん・PETボトルと  
キャップ



消毒用アルコール  
のボトル



流動食のパウチ



段ボール



微量元素肥料  
土の中で徐々に溶ける  
環境に優しい肥料。



# 8つのマテリアリティの現状を真摯に捉え、持続的な改革に取り組みます



## バックカastingで取り組みを明確にする

「持続可能な開発目標 (SDGs)」が、国連総会において採択されたのは2015年でした。加盟国・組織の全会一致での決議であった意味は重く、私は、企業行動の具体的な目標や実現すべき世界のあり方を示したものとして全力で取り組むべきだと考えています。

東洋製罐グループでも、SDGsで掲げる17の目標を参考にしながら重要課題 (マテリアリティ) を定め、グループをあげて取り組みを始めました。

目標は現在の延長線上では達成できないことが多く掲げられております。私たちは、その実現のため、到達点から逆算して「いつまでに何を、どうするか」を考え、計画と実績を対照し、こまめに道筋を変更しながら、目標に近づけていく必要があります。そうした考え方のもとで、8つのマテリアリティについて現状を報告させていただきます。

### 1 社会ニーズに寄り添った容器・サービスの提供

飲料容器の歴史では、1960年代のビール用アルミ2ピース缶と74年のPETボトルの商品化は画期的な出来事でした。PETボトルは2015年に、びんと同じ数となる累

計5,000億個が使用され、誕生からわずか41年で5,000年の歴史を持つびんと並んだのです。PETボトルの軽く、割れにくく、中身が見えて飲み残しができるという特性が、社会の要請に应运ってきたのです。

しかし現在、プラスチック容器は海洋プラスチックごみ問題に直面しています。東洋製罐グループとしてはよりリサイクルしやすいプラスチック容器の普及や、東洋製罐グループが得意とする詰め替えパウチへの切り替えにより減容化を進めることで対応していきます。

私たちは、容器にとって半世紀ぶりの大きな潮目が変わる時にいると思います。持続可能な地球のために、私たちが貢献できることはたくさんあります。

### 2 品質保証の充実

日本企業による品質データの改ざんが相次いで明らかになり、ものづくりへの信頼が揺らいでいます。品質データの改ざんは社会に対する裏切りであり、品質保証は企業存続の生命線でもあります。東洋製罐グループでは2019年4月、ホールディングス会社にグループ全体の品質保証体制を監督する「品質統括部」を設けました。製品品質の維持・向上への取り組みは、それ自体が企業の社会的責任を果たすものであると考えています。

## 8つのマテリアリティ

活動領域	マテリアリティ	
絶えざる新しい製品・サービスの創出	1 社会ニーズに寄り添った容器・サービスの提供	2 品質保証の充実
地球環境にやさしいしくみ	3 環境への貢献	4 サプライチェーンの持続可能性強化
誠実で責任ある行動	5 地域との共生	6 人権の尊重
	7 従業員の尊重	8 コンプライアンスの徹底

### 3 環境への貢献

東洋製罐グループは、中期環境目標「Eco Action Plan 2022」に基づいて努力してきましたが、海洋プラスチックごみ問題や政府によるプラスチック資源循環戦略の策定などの状況変化を踏まえ、よりレベルの高い目標が要請されています。それを受け「脱炭素への技術革新」を視野に、新たな中期環境目標となる「Eco Action Plan 2030」を2019年に制定しました。サプライチェーン全体を考慮したCO<sub>2</sub>排出量の削減目標にするほか、再生材や植物由来樹脂などの再生可能材料への転換目標などを盛り込みました。

### 4 サプライチェーンの持続可能性強化

持続可能な地球を目指すためには、東洋製罐グループだけでなくサプライチェーン全体での取り組みが必要です。私たちは、今後環境や社会・人権面に関するCSR調達に取り組み、持続可能な地球の実現に貢献します。

### 5 地域との共生

グループ企業が展開する地域の実情に応じた貢献を行っています。例えば本社ビルには「容器文化ミュージアム」を開設して、包装容器全般の歴史と技術を展示しています。また小学生や中学生向けに、「環境教育」「キャリア教育」も実施しています。

### 6 人権の尊重

東洋製罐グループは、2019年6月に「人権方針」を策定しました。私たちは、海外16カ国で事業を展開していますが、日本だけでなく海外でも、また企業の内外を問わず人権の尊重を全ての取り組みの基礎に据え行動していきます。

### 7 従業員の尊重

ダイバーシティの尊重は、ビジネスに新たな活力をもたらすものであり、その認識はグループ内にも浸透してきました。また働き方改革の一環として2018年6月よりテレワーク(在宅勤務)を試行してきましたが、2019年7月に本格導入しました。まずは週2日、1カ月に10日までとして運用を始め、定着を目指しています。

### 8 コンプライアンスの徹底

企業には、ポジティブな活動を増やすこと、ネガティブな行動を慎むことの両方が要請されています。グループ内では2018年4月以降、飲酒運転が5件発生し、降格も含め

た厳しい処分を行いました。

東洋製罐グループの主力事業会社である東洋製罐は、2018年2月6日に飲料缶の取引に関して、独占禁止法違反の疑いがあるとして、公正取引委員会の立ち入り検査を受け、以降、同委員会の調査に全面的に協力してまいりましたが、2019年9月26日に、同委員会より排除措置命令および課徴金納付命令を受けました。

グループはこの事実を厳粛に受け止め、二度とこのようなことが起きないように、法令遵守のより一層の徹底に取り組んでまいります。



## ガバナンス、新組織について

8つのマテリアリティ以外にも報告させていただきたい事柄があります。ガバナンスの強化では、2018年10月に代表取締役2名と社外取締役5名からなる諮問機関「ガバナンス委員会」を設けました。また2019年度には初めて女性の社外取締役が誕生して取締役会の議論がより活発になっています。

SDGsへの取り組みを、事業と具体的にリンクさせるために2019年4月には「イノベーション推進室」を設けて外部とのコラボレーションを強化しています。同じく4月にはシンガポール支店を開設。アジアの大学や企業と協調して当地の人たちが求める製品開発につなげていきます。

SDGsが決議されては4年で、残る時間は11年しかありません。日本においては、当初は取り組みが鈍かったものの、現在では挑戦的な目標を掲げて行動する企業も増えてきております。東洋製罐グループも、社会の動きを見据えて取り組みを加速し、その社会的責任を完遂したいと考えます。

東洋製罐グループホールディングス株式会社  
代表取締役会長

中井隆夫



# 東洋製罐グループのCSR経営

東洋製罐グループは、2016年に「東洋製罐グループの経営思想」を制定しました。  
この経営思想をグループの共通指標として総合力を発揮し、次の100年を目指します。

## 東洋製罐グループの経営思想

**経営理念**  
常に新しい価値を創造し、持続可能な社会の実現を希求して、人類の幸福に貢献します。

**信条**  
品格を重んじ、あらゆる事に日々公明正大に努めます。  
一人ひとりの力を最大限に発揮し、自己の成長と共に社会の繁栄に努めます。

**ビジョン**  
世界中の人に必要とされる斬新で革新的な技術と商品を提供するグループを目指します。

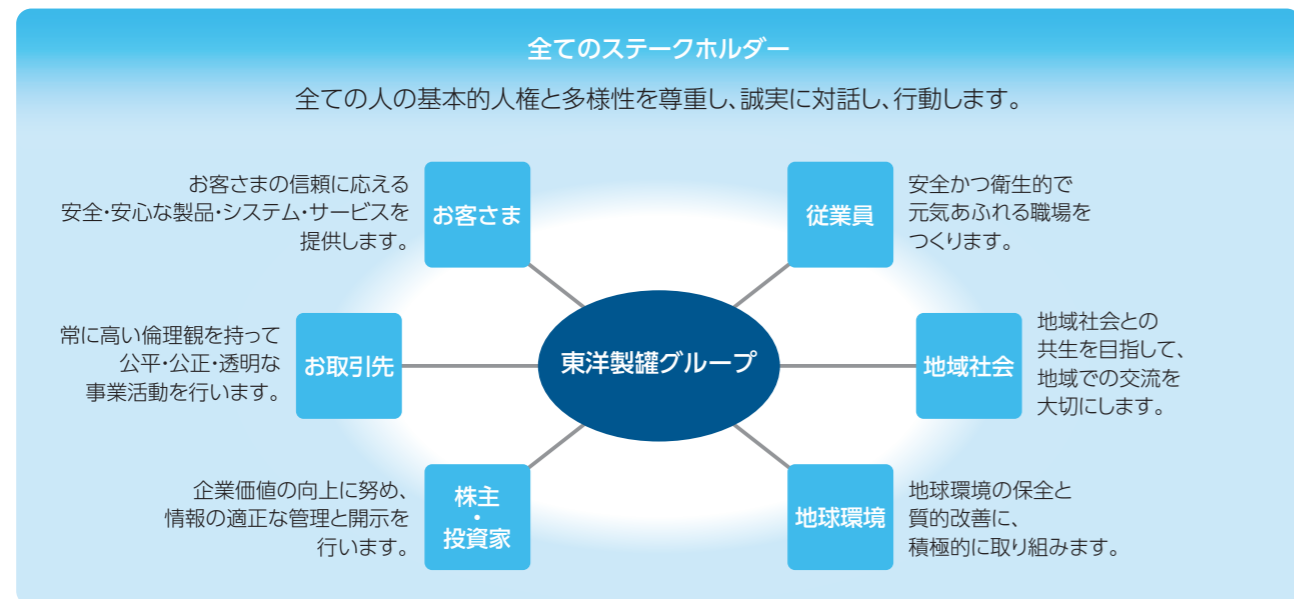
## 東洋製罐の根本方針

1933年(昭和8年)、創業者高碇達之助は『東洋製罐の使命』という小冊子の中で、創業の理念を根本方針として明文化し、株主、従業員、業界関係者に配布しました。以来、東洋製罐グループは、この根本方針のもとに使命を果たしてまいりました。  
東洋製罐グループのCSRの原点がここにあります。

- 一、 我々の目的は人類を幸福ならしむる結果を齎す所になければならぬ。
- 二、 事業は営利が目的でなく利益は結果であり目的でない。
- 三、 自己の受持により各自が奉仕の精神を尽し此の精神を団体的に発揮する事に努め、自己の繁栄をねがうと同様に関係業者の繁栄に努力しなければならぬ。

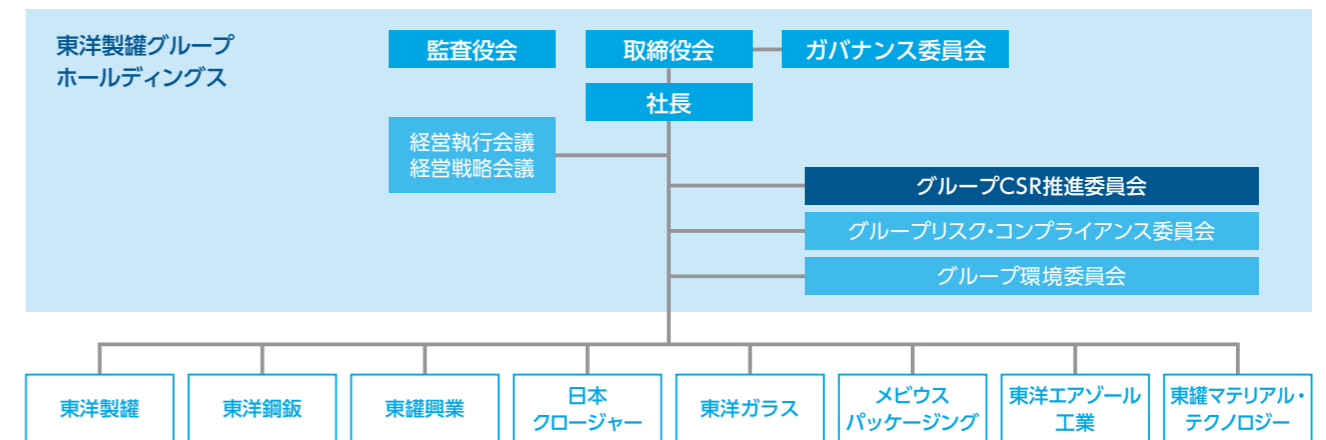
## 東洋製罐グループCSR基本方針

東洋製罐グループのCSRとは、「誠実で公正な事業活動を通して、人類の幸福繁栄に貢献しつづけること」です。  
東洋製罐グループで働く一人ひとりが、CSR精神を理解し、全てのステークホルダーに対応します。



## グループCSR推進体制

東洋製罐グループのCSR経営を推進するために、グループCSR推進委員会を設置しています。  
同委員会は、東洋製罐グループホールディングス会長を委員長とし、同社の役員および各主力統括会社、統括会社社長を委員として構成します。



## グループマテリアリティ(重要課題)

東洋製罐グループは、持続可能な社会の実現に貢献するため、優先的に取り組む課題を設定しています。これは東洋製罐グループの経営思想を踏まえたものであり、経営と一体になったCSRへの取り組みを推進していくための指標となります。  
この課題に取り組むことにより、2015年9月に国連で採択された「SDGs(持続可能な開発目標)」の達成にも貢献します。

活動領域	マテリアリティ	実現する内容	SDGsへの貢献
絶えざる新しい製品・サービスの創出	社会ニーズに寄り添った容器・サービスの提供	社会に有用で安全な製品・システム・サービスを開発・提供します	2, 12, 14, 15
	品質保証の充実	製品・システム・サービスの品質と安全性を確保します	12, 13
地球環境にやさしいしくみ	環境への貢献	低炭素社会・資源循環社会・自然共生社会の実現に貢献します	6, 7, 8, 12, 13
	サプライチェーンの持続可能性強化	持続可能な原材料調達体制を確立します	13, 14, 15
誠実で責任ある行動	地域との共生	各国の社会情勢、文化や習慣などを理解・配慮した地域貢献活動を推進します	2, 11
	人権の尊重	基本的人権を尊重し、あらゆる場面で人権を侵害しません	5, 8
	従業員の尊重	成長・挑戦しつづける人材を育成・支援します	3, 5, 8
		多様性を強みとして活かせる組織風土をつくります	3, 5, 8
		仕事と生活が両立できる柔軟な働き方を実現します	3, 5, 8
健康と安全に配慮した働きやすい職場環境を整えます	3, 5, 8		
コンプライアンスの徹底	公正な事業活動の徹底を図ります	16	



# 地球環境とのかかわり

地球環境の保全と質的改善に、積極的に取り組みます。

## 2018 TOPICS

### 第5回モーダルシフト最優良事業者賞(大賞)を受賞

東洋メビウスは、2018年11月27日モーダルシフト取り組み優良事業者公表・表彰(主催:一般社団法人日本物流団体連合会)において、モーダルシフト最優良事業者賞(大賞)を受賞しました。専用31フィートコンテナを開発し、2017年12月から関東~関西間の缶蓋製品輸送においてトラック輸送から鉄道輸送へのモーダルシフトを実施。輸送品の特性に配慮しつつ、環境負荷低減とトラックドライバー不足などの問題解決につながったことが評価されました。今回の受賞を機にさらなる環境負荷低減に向けて活動に取り組んでいきます。



### 太陽光発電設備を導入

2019年4月3日竣工の日本クロージャー小牧工場新プラスチック棟では、CO<sub>2</sub>排出量削減やランニングコスト低減など、環境・省エネに配慮した工場づくりの一環として、太陽光発電設備を導入しています。屋上に設置した太陽光パネル数は2,376枚、予測発電量は年間681,701 kWhで、約200tonのCO<sub>2</sub>排出量削減を見込んでいます。

また、東罐興業厚木工場では、新棟を省人化、省力、効率化を見据えたコンセプトで建設し、屋根の有効利用として太陽光発電設備を約300kW設置しました。従来工場に比べ、面積あたりの月の平均電力量を大幅削減したことが評価され、平成30年度かながわ地球環境賞を受賞しました。



日本クロージャー小牧工場新プラスチック棟

### 2018年度缶くんの環境教室

東洋製罐では、大崎フォレストビルディング1階「容器文化ミュージアム」の夏休みイベントにあわせて、小学校4~6年生を対象とした、容器と水の関係を学ぶ環境教室を開催しました。普段使っている水はどこから来るのか、缶を作るために水がどのように使われているのかなどを説明しました。プランクトンの観察では子どもと親が顕微鏡を一緒にのぞく場面もあり、親子で水の大切さについて考えていただけたようです。



### 環境ビジョンおよび環境目標

東洋製罐グループでは2002年に環境方針を制定し、事業活動を通じて、地球環境の保全と質的改善に、積極的に取り組んできました。

2015年には、2050年までを見据え、環境ビジョンを改定するとともに、長期環境目標の策定を行い、持続可能な社会の実現に向けた次のステップへ踏み出しました。

#### 東洋製罐グループ環境ビジョン

東洋製罐グループは、固有技術の結集と世界の技術の活用により、私たちが提供する製品・サービス・システムのバリューチェーンにおいて、3つの側面から持続可能な社会の実現に貢献します。



#### 2050年長期目標

CO<sub>2</sub>排出量の半減を目指します。  
※2013年度比

新規投入資源の使用量を最大限に削減し、再生材や再生可能材料への代替に努めます。

調達、開発、製造、販売、サービス活動においてライフサイクルを考慮し、製品およびサービスを通じて、地球上の生物や人類が永続的に共生できる社会の実現に貢献します。

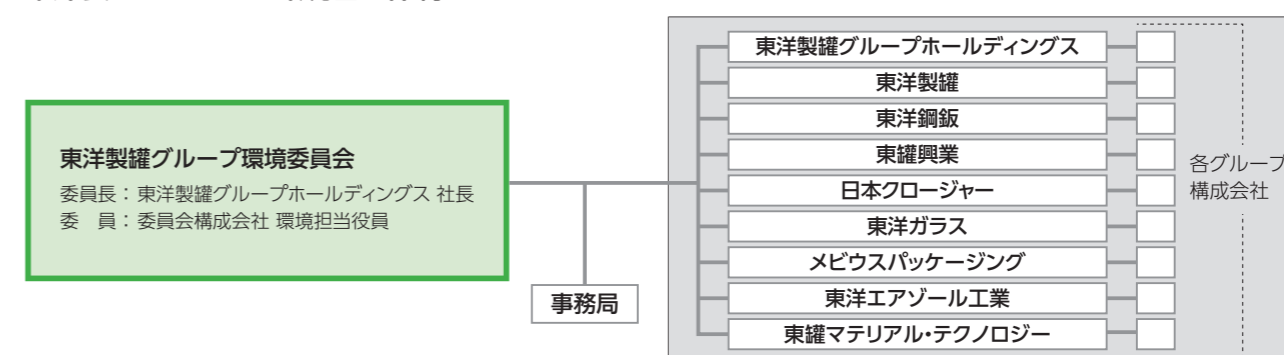
### グループ環境管理体制

東洋製罐グループでは、東洋製罐グループホールディングスの社長を委員長として東洋製罐グループ環境委員会を組織し、グループ全体の環境経営を推進しています。

グループ全体の環境経営は、年2回の環境委員会にて審議、決定し、年5回の事務局連絡会にて、進捗管理を行っています。グループ各社は、グループ環境委員会での決定事項に基づき、その内容を自社で展開し、各社の環境管理活動を推進しています。

#### 東洋製罐グループの環境管理体制

#### 各社の環境組織





地球環境とのかかわり

新たな中期環境目標「Eco Action Plan 2030」を策定しました

昨年度までは、2022年を目標年とする中期環境目標「エコアクションプラン2022」に基づいた活動を行い、概ね計画通りの実績が得られています。しかしながら、昨今の地球温暖化対策、資源循環、海洋プラスチックごみ問題等々も踏まえSDGsの目標年である2030年に向けた新たな目標「Eco Action Plan 2030」へ改訂しました。

● 地球温暖化対策

事業活動でのCO<sub>2</sub>排出量（燃料燃焼等の直接排出：Scope1、電力等の間接排出：Scope2）のさらなる削減だけでなく、上流・下流のサプライチェーンでの排出量（Scope3）削減も目指します。サプライチェーンの中で特に大きな割合を占める原材料調達（購入した製品・サービス）に伴う排出量と販売した製品の廃棄に伴う排出量の削減に重点を置いた削減目標としました。

極力削減し、使用後は再び資源化されやすい製品設計を進める事によりワンウェイから循環型製品・システム化へ進化させる事を優先課題と考え、数値目標を設定しました。

● 海洋プラスチックごみ問題

東洋製罐グループでは、多くのプラスチック製品を社会に提供していますが、個社の取り組みだけではこの問題は解決できません。バリューチェーンで協働して解決に向けて取り組んでいきます。

● 資源循環

今後、特に石油資源の利用から、再生材や植物由来樹脂などの再生可能材料への転換を進め、枯渇資源の使用を

Eco Action Plan 2030

低炭素社会	①事業活動でのCO <sub>2</sub> 排出量 (Scope1,2) を30%削減 ②サプライチェーンでのCO <sub>2</sub> 排出量 (Scope3) を15%削減
資源循環社会	①枯渇性資源 <sup>*1</sup> の使用量を30%削減 ②プラスチック製品については化石資源 <sup>*2</sup> の使用量を40%削減 ●プラスチック製品の軽量化、素材転換により15%削減 ●再生材・植物由来樹脂の利用率を30%向上 ③全ての容器包装製品をリサイクル可能またはリユース可能に
自然共生社会	①環境リスク・環境汚染物質の低減 ●PRTR法に関する物質の排出・移動量を2022年度までに15%削減 ②生物多様性の保全を推進 ●事業活動での水使用量を30%削減 ③外部コミュニケーション活動の推進 ●海洋プラスチック問題解決に向けた対応（散乱防止）と情報公開

\*1 枯渇性資源：自然のプロセスにより、人間などの利用速度以上には補給されない天然資源  
\*2 化石資源：石油・天然ガス等

基準年：2013年度

2018年度活動総括

昨年度までの具体的な中期環境目標であるエコアクションプラン2022に基づいた、2018年度のグループ全体での目標進捗状況は以下のとおりです。

エコアクションプラン2022 中期環境目標の進捗状況

環境ビジョン	2022年度	2018年度		
	中期目標	単年度目標	実績（主な取り組み）	評価
① CO <sub>2</sub> 排出量を大幅に削減する「低炭素社会」	CO <sub>2</sub> 排出量を14%削減	●CO <sub>2</sub> 排出量を10.7%削減 ●エネルギー消費量原単位を4.8%削減	【CO <sub>2</sub> 排出量 9.2%削減】 【エネルギー消費量原単位 10.5%削減】 CO <sub>2</sub> 排出量は、設備更新をはじめとした各種省エネルギー活動により前年に比べて-1.3%との削減となりましたが、目標達成までには至りませんでした。特に、海外事業所では生産拡大により、CO <sub>2</sub> 排出量の絶対値が増加しているのも一つの要因です。 一方、エネルギー消費原単位の指標でみると、順調に推移し目標を達成しています。	★★
② 限りある資源を有効に活用する「資源循環社会」	物質投入量原単位を3%削減 購入資材のグリーン調達推進	●物質投入量原単位を1.7%削減	【物質投入量原単位 6.9%削減】 容器をはじめとした製品の軽量化および工程での歩留まり向上（不良率低減）等の取り組みにより、目標を達成しています。材料投入総重量に対する製品総重量の割合（材料の利用率）も向上しており、引き続き、資源の有効利用に努めます。	★★★★
③ 自然からの恵みを受け続ける「自然共生社会」	環境リスクの低減 環境汚染物質の低減 認証製品の購入を推進 外部コミュニケーション活動の推進 生物多様性の保全推進	●PRTR法対象化学物質の排出・移動量を7.4%削減	【PRTR法対象化学物質の排出・移動量 6.4%増加】 たとえば、印刷インキの脱トルエン化をはじめとする材料仕様改善などにより対象物質の排出・移動量が減少していますが、一方で、一部製品において、要求品質に対応するための工程管理上、該当物質の使用量増加の影響が大きく、設定目標を超えてしまいました。	★

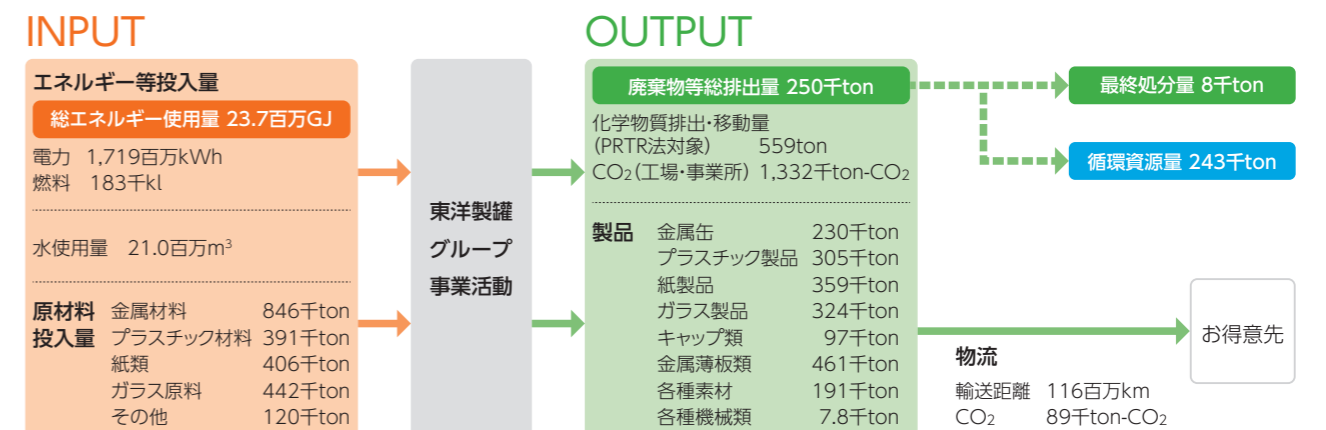
評価指標：★★★★ 目標を達成できた ★★ 目標に対してわずかに未達成 ★ 取り組みが不十分

基準年：2013年度

事業活動にともなう環境負荷

東洋製罐グループでは全体の物質収支の把握に努め、環境負荷の低減に取り組んでいます。

東洋製罐グループ2018年度物質フロー【国内事業所】





地球環境とのかかわり

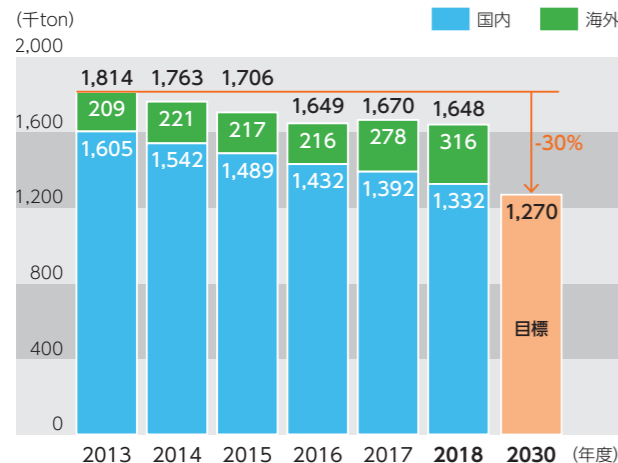
低炭素社会へ向けて

● 事業活動でのCO<sub>2</sub>排出量 (Scope1,2)

2018年度の国内および海外の事業所のCO<sub>2</sub>排出量は、前年度に比べて1.3%削減し、1,648千tonでした。

国内事業所では、各種省エネルギーの取り組みなどにより、前年度より60千ton減少しました。一方、海外事業所では、2017年度より新設事業所の稼働、生産拡大により増加傾向にあります。2019年度も引き続き、設備更新、製造ラインの統廃合、生産効率向上などに積極的に取り組んでいきます。

CO<sub>2</sub>排出量の推移

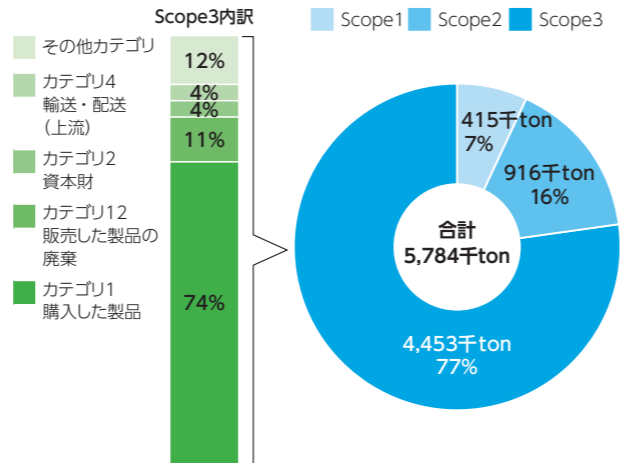


● サプライチェーンでの温室効果ガス排出量 (Scope3)

東洋製罐グループでは、自社からの温室効果ガス (GHG) 排出である直接排出量 (燃料等の燃焼にともなう Scope1) と間接排出量 (電力使用にともなう Scope2) に加え、サプライチェーンの上流および下流の排出量 (Scope3) を算定しています。

2018年度のグループ国内事業所における Scope3 排出量は、サプライチェーンを含めた全体に対して約8割を占めています。また、Scope3の内訳では、購入した製品 (原材料の調達、カテゴリ1) の割合が非常に高くなっています。この結果からも、製品の軽量化、再生材料の利用、再生可能材料の利用などを推進することによりGHG排出量を削減していきます。

サプライチェーンでのGHG排出量 (2018年度)



環境配慮型製品の認定

東洋製罐グループでは、製品のライフサイクル全体を考え、環境負荷の少ない製品の開発・製造・販売を進めています。

「原材料調達」「製品製造」「輸送」「消費」「廃棄・リサイクル」のライフサイクルの各段階での評価項目からなるグループ統一の判定基準を策定し、それに基づいた環境配慮型製品の認定を行っています。2019年3月末時点で55製品が環境配慮型製品として認定されています。

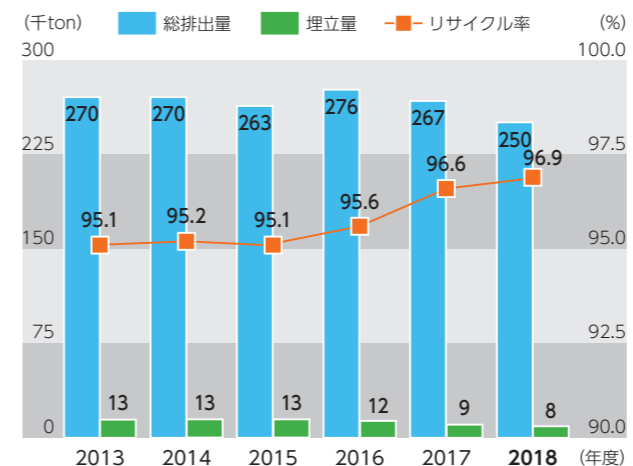


資源循環社会に向けて

● 資源の有効利用と廃棄物の削減の取り組み

2018年度の国内事業所から排出された廃棄物等の総排出量 (有価物も含む) は、前年度に比べ6%削減しました。排出物の96.9%がリサイクルされていますが、残りの8千tonが埋立処理 (単純焼却を含む) されています。今後も引き続き分別の徹底や、廃棄物処理業者と協力しながらリサイクル手法の検討を行うなど削減に向けて取り組んでいきます。

廃棄物等排出量の推移 (国内事業所)



自然共生社会へ向けて

● 海洋プラスチックごみ問題に対する取り組み

クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンスを通じた活動

地球規模の新たな課題である海洋プラスチックごみ問題の解決に向け、プラスチック製品の使用がより持続可能となる3Rの新たな取り組みや代替素材の開発・導入を推進し、官民連携でイノベーションを加速化するために、2019年1月にサプライチェーンを構成する幅広い事業者からなる「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス」が設立されました。東洋製罐グループホールディングスは幹事会社として設立準備段階から参加し、業種を超えた関係者と連携した活動を開始しました。

樹脂ペレット漏出防止対策を徹底します

プラスチック製品の原料である樹脂ペレット (数mmの大きさ) が、工場敷地外へ漏出してしまうと海洋プラスチックごみとなってしまいます。グループのプラスチック製品の製造会社では、従来より、作業中にこぼれた樹脂ペレットが雨水溝から敷地外へ漏出しないよう、金網を設置するなどの対策を実施してきましたが、今般、漏出防止の管理を徹底するために、「樹脂ペレット漏出防止ガイドライン」を策定し、各社の環境マネジメントシステムの中で、管理することとしました。

しながわECOフェスティバルにて環境配慮型容器が採用されました

東洋製罐グループは、例年品川区主催の「しながわECOフェスティバル」に出展し、環境に配慮した製品をアピールし、工作教室を通じて楽しみながら容器について学んでいただくなど、環境を通して多世代との交流をしています。

近年、プラスチックごみによる海洋汚染が世界的に注目される中、2019年5月26日 (日) に開催された同イベントで、品川区は飲食ブースで使用する容器類を環境配慮型の製品へ置き換えるなど、使い捨てプラスチック製品の削減に取り組みました。

環境配慮型製品として東罐興業の紙コップ、紙製フタ、紙ストローをセットで採用いただき、使用後は資源ごみとして回収、リサイクルされました。



当日展示したパネル



# 品質保証

長年にわたり蓄積した経験・技術・ノウハウを活用し、お客さまや社会のニーズに応える製品・システム・サービスの開発、提供に努めています。

## 2018 TOPICS

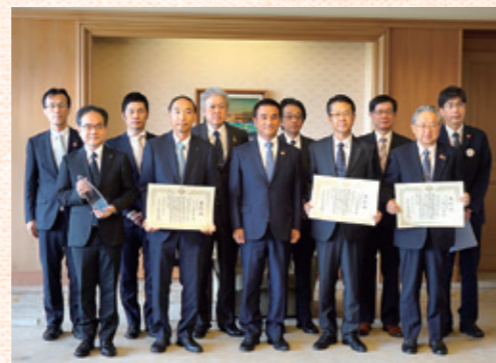
### BCMがKaizen Awardを受賞

Bangkok Can Manufacturing (BCM) は2018年8月31日、泰日経済技術振興協会 (TPA・通称ソーソー) の主催する“Kaizen Award”で、アルミDI缶ラインの工程改善 (潤滑剤排水路の改良・缶胴絞り工程の清掃方法見直し) が高く評価され、“Silver Award”と“Certificated”の2つの賞を受賞しました。BCMでは今後も継続して改善活動を行っています。



### 山口県産業技術特別褒賞を受賞

東洋鋼鋳は、旭興産株式会社、山口大学と連携して取り組んできた「個別化医療に有用な遺伝子体外診断薬システムの研究開発」の成果が評価され、「山口県産業技術特別褒賞」を受賞しました。この賞は、県内複数企業等の連携によるイノベーションを促進するため2018年度新たに創設されたもので、今回の受賞が第1号となりました。



受賞式では、山口県の村岡知事から「今後も優れた研究開発を行い、さらに大きな成果を上げることを期待している。県としても優れた研究開発や革新的な取り組みを引き続き応援したい」とのコメントをいただきました。

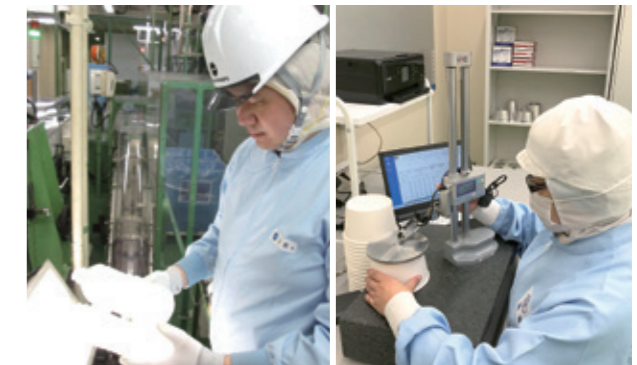
### 作業服の切り替え

東洋鋼鋳では、従業員の名前の認識性を高めるために、作業服の名前表示を大きくしました。食品の意図的な異物混入を防止するフードディフェンスの管理体制強化につながり、また、マスクで顔が見えなくても後ろを向いても名前を呼びかけることができ、風通しの良い職場環境につながることも期待されています。2018年10月から順次切り替え、2019年3月に完了しました。



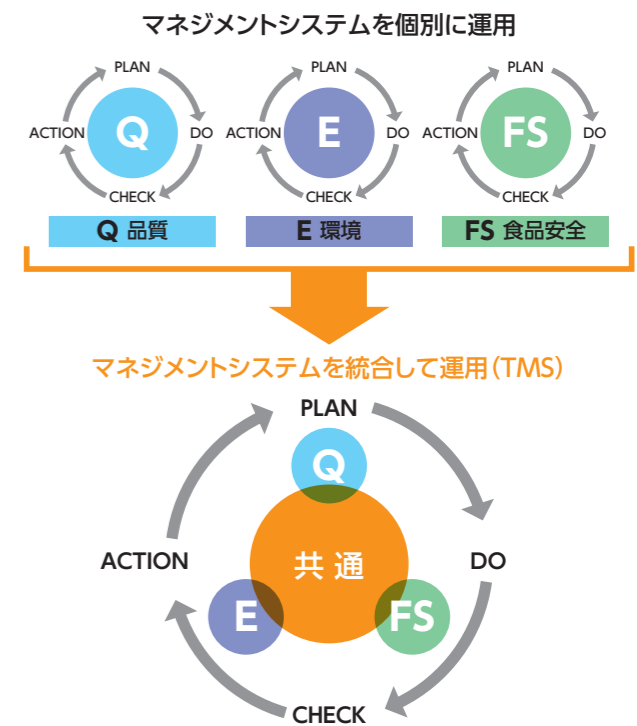
### 品質保証体制

東洋製罐グループは、(1) お客さま・社会が安心して使用できる安全な製品・システム・サービスの提供、(2) お客さま・社会から信頼していただける企業グループとしての社会的行動の実践、をグループ品質指針として掲げ、グループ各社の事業活動において品質保証活動を展開しています。創業当時からあるべき姿として掲げてきた、「品質優良」「価格低廉」「迅速供給」の精神を継承し、常にお客さまの信頼に応えるため、開発・調達・製造・販売・サービスの全プロセスにおいて、時代に合った品質の確保、向上に取り組んでいます。



### マネジメントシステムの構築

東洋製罐グループの事業会社各社では、品質マネジメントシステム (ISO9001) を構築し、品質の確保、向上に取り組んでいます。また食品向け容器の製造販売を行う各社では、食品安全マネジメントシステム (FSSC22000) を構築し、より安全な製品の提供とフードチェーンにおける信頼性向上に取り組んでいます。中でも、東洋製罐、東洋ガラス、メビウスパッケージングでは、品質、食品安全、環境 (ISO14001) の3つのマネジメントシステムを統合運用する「TMS」を構築しています。マネジメントシステムの統合により重複業務を省き、部分最適から全体最適へと視野を広げ、マネジメントシステムと事業活動とが融合した「活かしたシステム」を使って、お客さまに信頼されるものづくりを推進しています。



### 技術開発の取り組み

東洋製罐グループでは、お客さまのさらなる満足と信頼を得るため、包装・容器市場の多様化するニーズに応える高付加価値の製品・技術・システム・サービスの研究・開発に努めています。さらに、長年にわたり蓄積した技術と先端技術を活用して、新たな市場の創造と新規事業の創出に取り組んでいます。

### 技術開発体制

東洋製罐グループでは、基礎的な研究開発を担う総合研究所を含む東洋製罐グループホールディングスの開発機能系各部門を中心に、東洋製罐テクニカルセンター・東洋鋼鋳技術研究所・東洋鋼鋳技術開発本部・日本クロージャー製品開発部・東洋ガラス開発本部・メビウスパッケージング技術部をはじめとする各事業会社の開発部門が連携しながら技術開発を行っています。





# 受賞実績

お客さまの信頼に応える安全・安心な製品・システム・サービスを提供します。

## 2018年度 東洋製罐グループの受賞製品のご紹介

東洋製罐グループ各社が開発した容器包装製品は、2018年度も国内外から高い評価を受けました。環境負荷の低減、機能性・使いやすさの向上、さらにはデザイン性を追求した受賞製品が多くありました。

今後もグループの総合力を発揮して、お客さまのニーズに合った容器を提案してまいります。

### 各賞の説明

【木下賞】公益社団法人日本包装技術協会主催 包装の研究・開発、改善・合理化、新規分野の創出において顕著な業績をあげたものが表彰される。	1 2
【日本パッケージングコンテスト】公益社団法人日本包装技術協会主催 優れたパッケージとその技術を開発普及することを目的に開催される、包装分野における国内最大のコンテスト。	1 3 4 5 6 7 8
【ワールドスターコンテスト】世界包装機構主催 日本パッケージングコンテスト入賞製品にワールドスターコンテストへの出品資格が与えられる。	4 5
【アジアスターコンテスト】アジア包装連盟主催 アジア各国の優れたパッケージを世界に紹介することを目的として開催。各国の国内コンテストにおいて入賞したパッケージだけがエントリー可能。	4
【ガラスびんアワード】日本ガラスびん協会主催 時代の潮流、消費者のライフスタイルの変化をとらえ、世の中のトレンドをガラスびんを通じて表現する“場”や“機会”として開催。	9 10
【Cans of the Year Awards】セイヤーズ・パブリッシング社主催 世界的に著名なメタルパッケージのコンテスト。世界各国から新製品や新技術が出版され、その中から各部門賞と最高賞である“Can of the year”が選ばれる。	11

### 1 立体成形「Cool Shock®」を施したパウチ

第42回(平成30年度)木下賞 研究開発部門  
東洋製罐

パウチに凹凸のエンボス加工を施し、意匠性を高めたことが評価されました。



日本パッケージングコンテスト2018 テクニカル包装賞  
東洋製罐

フィルムの片面から凸金型で圧縮するだけで立体成形を施すことができる独自技術のCool Shock®成形を考案し実用化しました。従来技術ではできなかった繊細で複雑かつ広範囲におよぶ立体成形を可能にした意匠性に優れるパウチです。凸金型のみで冷間(常温)で成形を行うため、金型代・エネルギー代が抑えられます。



### 2 アイガーキャップ 液体紙容器用、 中栓同時開栓注出口の開発

第42回(平成30年度)木下賞 新規創出部門  
メビウスパッケージング  
共同受賞：大日本印刷株式会社

キャップを回して開けるだけで“カチッ”という音がして中栓が同時に開封される注出口の利便性・新規性が評価されました。



### 3 リシールカップ フジッコ株式会社佃煮小鉢

日本パッケージングコンテスト2018  
消費者団体推薦賞  
東洋製罐  
共同受賞：フジッコ株式会社、  
三菱ケミカル株式会社

カップ入り・トップシールの佃煮開発において、お客さまの利便性向上を目的として、リシール機能を付与しました。フィルムのリシール性を最大限発揮できるよう容器・包装機を同時開発し、硬質容器への適用に成功。開封後、指による圧着で5回程度繰り返し再封できます。これにより容易に乾燥を防ぎ品質を保持するとともに、ラップ等が不要となり廃棄物の削減にも貢献します。

### 4 調味料容器

日本パッケージングコンテスト2018  
食品包装部門賞  
ワールドスター2019 コンテスト  
ワールドスター賞  
アジアスター2018 コンテスト  
アジアスター賞

メビウスパッケージング、日本クロージャー、  
東洋製罐グループホールディングス  
共同受賞：キューピー株式会社

キャップを回すと同時に中栓も開栓できるプルリングレスタイプです。中栓開口部にリシール機構を設け、振り混ぜ直後

でも口汚れしにくく、廃棄時は分別バンドを引き裂きやすくして、中栓の取り外しを容易にした容器です。容器は持ち運びやすく振りやすいPETボトルにして、軽量化を実現しています。



### 5 紙パック用口栓 26フックスパウトセット

日本パッケージングコンテスト2018  
飲料包装部門賞  
ワールドスター2019 コンテスト  
ワールドスター賞

日本クロージャー、  
共同受賞：日本製紙株式会社

利便性向上を目的に、紙パックのチルド飲料用の口栓開発を行いました。開け閉めがしやすく、プルリングなしで密封性を保持しつつ、開栓トルクが上がり過ぎないシール形状を採用しています。初開栓時は、ブリッジの破断感による開けた感覚を付加しました。中身を脈動させず注ぎ出すことができ、液切れも良い注出口形状です。



### 6 ビールギフトカートン 包装資材廃棄ロス削減形態

日本パッケージングコンテスト2018  
適正包装賞  
日本トーカンパッケージ  
共同受賞：サッポロビール株式会社

商品改定のたびに廃棄される在庫資材ロスを最小限に抑えるため、環境対応にも配慮した合理的なギフト形態を開発しました。新たに商品認識パーツ(POP)を追加し、蓋に開けた窓穴から商品情報を認識できるようにしています。識別パーツを差し替えることで、同型ギフト全ての蓋資材の共通化が図れます。



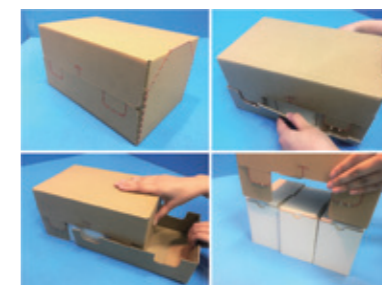
### 7 525PET x 24簡易開封・陳列 (リーフカット)

日本パッケージングコンテスト2018  
ロジスティクス賞  
日本トーカンパッケージ  
共同受賞：株式会社伊藤園

シエルフレディパッケージングの開封性と耐圧強度を向上しました。波形状の切れ刃を入れることで簡単できれいに開封でき、段積みした際には、上からの圧力が逃げるようになっています。また、波形状の切れ刃を反転させ、端を若干ずらすことにより、横からの衝撃で外装箱が開かないようにしています。

### 8 簡易陳列包装箱

日本パッケージングコンテスト2018  
POP・店頭販売包装部門賞  
日本トーカンパッケージ



店頭でのオペレーション作業(品出し、陳列)を軽減する箱形態を開発しました。商品一つひとつを取り出しと陳列ができるようにしています。誰でも簡単に開封、陳列ができるシンプル構造です。段ボールトレイは棚に残さず、商品のみを陳列します。

### 9 株式会社明治屋「マイシロップ」

第15回ガラスびんアワード  
日本ガラスびん協会特別賞  
東洋ガラス  
受賞：株式会社明治屋

発売以来ガラスびん入りの定番シロップとして愛され続けています。カラフルな中身を際立たせる透明感と優れた保存性を兼ね備えたガラスびんが、長きにわたり同品の象徴ともいえる存在となっています。



### 10 サントリー食品 インターナショナル株式会社 「わつなぎ」

第15回ガラスびんアワード 優秀賞  
東洋ガラス  
受賞：サントリー食品インターナショナル株式会社

肩がなくすっと伸びたスタイリッシュなフォルムが美しく、シリーズで並んでいるとキッチン映えます。高級感を漂わせるびんが、こだわりを持って作られた上質なプレミアムシロップをアピールしています。



### 11 軽量アルミボトル缶「TOLAS」

Cans of the Year Awards 2018  
ボトル缶部門賞 銀賞  
東洋製罐

世界最軽量で、高い密封保持力があり、缶底形状をフラットパネルにすることで内圧検査が可能となりました。





人権

従業員とともに

東洋製罐グループ人権方針

東洋製罐グループは、2016年に「グループ経営思想」を制定し、その中で「持続可能な社会の実現を希求して、人類の幸福にグループ一体となって貢献していくこと」を掲げています。私たちは、その思いを実現するためには、自ら行うすべての事業活動で人権を尊重することが前提になると認識しています。

東洋製罐グループは、人権尊重の取り組みを推進し、その責務を果たしていく指針として、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づく、「東洋製罐グループ人権方針」を2019年6月に制定しました。

なお、私たちは、事業活動が人権に負の影響を及ぼす可能性を完全には排除できないことを認識し、真摯に向き合いその改善を進めます。

1. 適用の範囲

本方針は、東洋製罐グループのすべての役員と従業員に適用します。また、東洋製罐グループの製品・システム・サービスに係るすべてのビジネスパートナーに対しても、本方針の遵守を求めます。

2. 基本的な考え方

私たちは、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づく人権尊重の取り組みを推進するとともに、次に示すような人権にかかわる国際的規範を支持し尊重していきます。

- 国連「国際人権章典」（世界人権宣言と国際人権規約）
- 国際労働機関（ILO）  
「労働における基本的原則及び権利に関する宣言」
- 国連総会決議「先住民の権利に関する国際連合宣言」

3. 人権尊重の責任

私たちは、自らの事業活動において影響を受ける人々の人権を侵害しないこと、また、自らの事業活動において人権への負の影響が生じた場合は是正に向けて適切な対応をとることにより、人権尊重の責任を果たし、責任あるサプライチェーンを築いていきます。

4. 人権デュー・ディリジェンス

私たちは、人権に対する負の影響を特定し、その防止及び軽減を図るため、人権デュー・ディリジェンスの仕組みを構築します。

5. 対話・協議

私たちは、本方針を実行する過程において、独立した外部機関による人権に関する専門知識を活用し、ステークホルダーとの対話と協議を真摯に行います。

6. 教育・研修

私たちは、本方針がすべての事業活動に組み込まれ、効果的に実行されるよう、適切な教育・研修を行います。

7. 救済

私たちの事業活動が、人権に対する負の影響を引き起こした、あるいは取引関係等を通じた関与が明らかとなった場合には、国際基準に基づく、対話と適切な手続きを通じて、その救済に取り組みます。

8. 責任者

私たちは、本方針の実行に責任を持つ担当役員を明確にし、実施状況を監督します。

9. 情報開示

私たちは、人権尊重の取り組みの進捗状況及びその結果を、ウェブサイトなどで開示します。

10. 適用法令

私たちは、事業活動を行うそれぞれの国または地域における法と規制を遵守します。国際的に認められた人権と各国の法令の間に矛盾がある場合には、国際的な人権原則を最大限に尊重するための方法を追求します。



人権方針制定のためのワークショップ

人権課題に関する定量調査を実施

重要課題の特定に際して、世界的なリスク調査・分析機関Verisk Maplecroft社の人権リスクデータベースに基づき、事業と関連の深い10の人権課題について、事業領域別・国別に顕著な影響評価の定量調査を実施しました。その結果、東洋製罐グループが展開している事業領域の業界リスクは全体的に中～低レベルであり、最も優先すべき潜在的な人権課題は「容器・包装業界」「鉄・鋼生産業界」における「労働安全衛生」「適正賃金・労働時間」「先住民の権利」であることが特定されました。

さらにグループ内の関係者に対するヒアリングを中心とした調査を行い、潜在的な人権課題とかわりの深いサプライチェーンおよびステークホルダーを特定しました。その結果、サプライチェーン全体で「労働安全衛生」「適正賃金・労働時間」「先住民の権利」の課題があり得ることがわかりました。また、「調達」「製造」において「労働安全衛生」「適正賃金・労働時間」「先住民の権利」の取り組みが重要とされました。一般的に食品業界が影響を及ぼす可能性があるステークホルダーとしては、労働者、先住民族・地域住民があげられました。

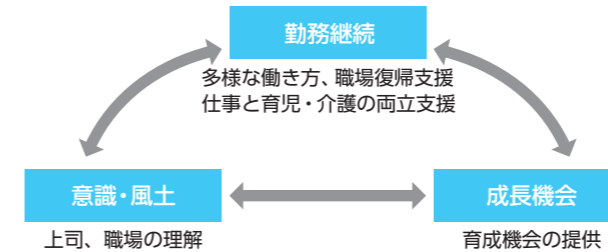
今後は、人権への影響度分析・評価を東洋製罐グループ各社で確認し、具体的な取り組みへの落とし込みを進めていきます。

安全かつ衛生的で元気あふれる職場をつくります。

多様な人材の活躍推進・働き方改革

東洋製罐グループが、企業競争力を高め、持続的に発展していくためには、誰もが自己の能力を最大限に発揮し、自分自身が成長するとともに、グループの成長にも貢献していく必要があります。一人ひとりが互いの個性と能力を認め合い、多様な価値観や発想、気づきを活かし、成果に結びつける組織を目指してダイバーシティ（多様性）マネジメントを推進します。

ダイバーシティマネジメントの考え方



● 女性活躍推進のさらなる拡大

東洋製罐グループは、2016年度に掲げた「事務・技術系」女性採用比率を30%以上とする目標を達成し、2018年からは「製造・現業系を含めた」女性採用比率30%以上という目標に上方修正し、女性活躍の場を広げています。製造現場のAI化や自動化、作業軽減のための設備導入を進め、「女性が働きやすい現場」＝「誰もが働きやすい現場」＝「強い現場」を目指します。

女性採用比率（新卒採用＋中途採用）

	2016年度	2017年度	2018年度
全体	17%	19%	21%
事務系	36%	48%	57%
技術系	18%	22%	20%
事務系＋技術系	27%	36%	42%
製造・現業系	11%	7%	10%

従業員の内籍状況（各期末現在）

	2016年度	2017年度	2018年度
従業員数	7,539名	7,678名	7,684名
女性内籍者比率（全体）	12.0%	12.6%	13.1%
事務系＋技術系	18.1%	19.1%	20.3%
女性管理職比率（課長以上）	2.5%	3.0%	3.0%

【対象】 東洋製罐／東洋鋼板／東洋興業／日本クロージャー／東洋ガラス／東洋製罐グループホールディングス

● 女性の活躍推進に関する取り組み

メビウスパッケージング泉佐野工場では、2016年から「Wプロジェクト（Women WakuWaku Workplace）」という、女性視点での改善や提案活動に取り組んでいます。男性中心だった製造現場を女性の視点で見直し、生産設備の自動化による作業負担の軽減やウェアラブルカメラを活用した業務教育の拡充など、さまざまな職場環境の整備を進めています。また、女性活躍の場を広げるため、ポジティブ・アクションを活用し、製造現場でも積極的に女性を採用しています。女性が働きやすい職場の実現は、全従業員の働きやすさ向上につながる考え、引き続き活動に取り組んでいきます。



「Wプロジェクト」ロゴマーク

● 育児休業からの復帰支援セミナー開催

グループ4社の育休復帰者とその上司を対象にセミナーを開催。今後のキャリア形成を考え、復帰者・上司それぞれの立場からの率直な意見交換の機会となりました。参加者からは「育児中でもキャリアアップの努力が必要だとわかった」「ライフイベントを含めた中長期的な育成の重要性を痛感した」等の意見が寄せられました。



● テレワークを試行

東洋製罐グループホールディングスでは働き方改革の一環として、テレワークの導入に取り組みました。テレワークによって、働く時間と場所を自律的に管理しながら生産性を上げること、誰もが能力を最大限に発揮できることを目標としています。2018年6月より試行を開始し、定期的な会議で課題検証を実施。また、東京都テレワーク活用促進モデル実証事業にも参加して、コンサルティング指導、各種ツールの試用も行いながら参加部署を拡大し、2019年度の本格導入となりました。



従業員とともに

「東洋製罐グループ健康経営宣言」の全文はWebサイトに掲載しています。  
 (下記のページは9月末公開予定です)  
<https://tskg-hd.com/csr/social/staff/staff03/>

健康経営

東洋製罐グループは、従業員の健康を経営課題ととらえ、健康維持・増進を図るため、2017年9月に「東洋製罐グループ健康経営宣言」を制定しました。

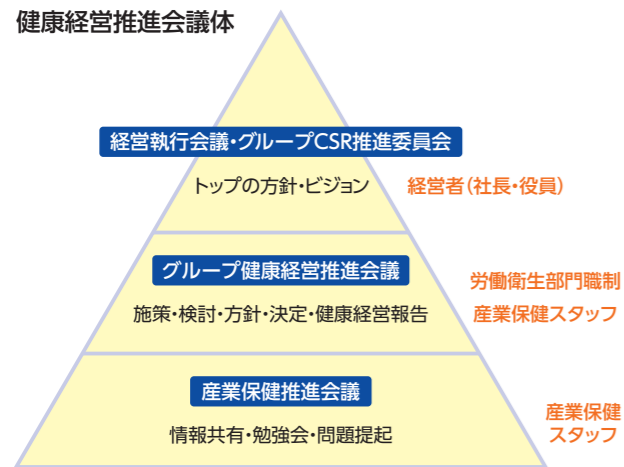
●健康経営優良法人2019(ホワイト500)認定

東洋製罐グループホールディングスと東洋製罐の2社は、2019年2月、経済産業省および日本健康会議の運営する健康経営優良法人認定制度において、「健康経営優良法人2019大規模法人部門(ホワイト500)」に認定されました。また、中小規模部門に日本ナショナル製罐が認定されました。



●グループ健康経営推進体制

健康経営推進会議体



健康経営宣言を実現するために、推進体制を整えています。グループ健康経営推進会議は、労働衛生部門職制と産業保健スタッフで構成され、各社の経営目線と従業員目線から活動を推進しています。2018年度産業保健推進会議は、東洋エアゾール工業筑波工場で開催し、三現主義に基づき自社と異なる現場を知ることでより一層のブラッシュアップを図り、健康経営に役立てています。

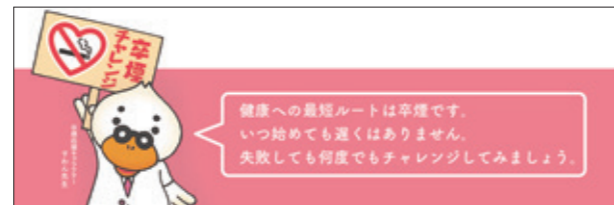


2019年2月15日東洋エアゾール工業筑波工場にて

●禁煙の取り組み

東洋製罐グループ本社ビル禁煙の取り組み

東洋製罐グループの従業員の健康保持・増進活動として、2017年9月に「2020年4月、東洋製罐グループ(国内)就労時間内全面禁煙を目指す」を目標に掲げました。本社ビルでは、目標に先駆け2018年10月より就労時間内全面禁煙を実施しています。今後は、グループ各社がその目標を達成できるよう卒煙支援等の施策をさらに充実させていきます。



卒煙啓発ポスター(部分)

東洋製罐健康保険組合の取り組み

禁煙外来補助(自己負担分)のほか、2019年度よりオンライン診療による卒煙治療の補助(自己負担無し)を開始しました。



●健康イベント開催

グループ数社と東洋製罐健康保険組合が共催し、健康イベント「ぷちアドベンチャーゲームinお台場」を開催しました。6事業所51名が参加し、クイズや目隠しボール拾いなどさまざまなミッションをこなしながら、各々2万歩近く歩きました。会社の垣根を越えた交流、日頃の運動不足の解消に繋がるイベントとなりました。



人材育成

●グループで連携した人材育成

東洋製罐グループは、グループで連携して人材育成を推進しています。グループ共通の集合教育として、若手層を対象とした論理的な思考方法を習得するための「ロジカルシンキング研修」、新任部長・新任課長・新任係長を対象とした管理職研修、MOT(技術と経営の融合)をベースに選抜した技術系若手リーダーを対象とした「TLP(テクニカルリーダーズプログラム)」を実施しています。これらの研修におけるグループ内人材交流を通じて、個社を越えたグループ一体感の醸成、人的ネットワークの構築を進めています。

従業員の自己啓発のサポートとしては、通信教育の修了者には受講料を全額補助する制度を設けています。2018年度はグループ会社全体で延べ3,150件の申し込みがありました。また、語学強化推奨を目的にTOEIC受験料の全額補助制度を導入しています。

グループを牽引する次世代のリーダー育成を目的に、主力会社の部長・課長層を対象に人材を「見つける・育てる・配置する」中核人材マネジメントを推進しています。選抜された人材に対しては部長層を対象とした「次世代経営人材育成研修」および課長層を対象とした「TSGBC(東洋製罐グループビジネスカレッジ)」の受講を通じて、経営に関する「知」の習得とリーダーとしての「軸」の確立を目指し、グループの将来について広い視点で事業計画策定に取り組み、経営に提言を行います。受講後は各方面で活躍できる機会を計画しています。

このように、東洋製罐グループは、さまざまな人材育成の機会を通じて「人材」の基盤づくりに積極的に取り組んでいます。



若手層を対象とした「ロジカルシンキング研修」風景

グループ共通の社内研修(2018年度)

分類		参加人数
選抜研修	次世代経営人材育成研修(第6、7期)	29名
	TSGBC(第7期、アドバンス)	36名
	TLP(第11期)	22名
階層別研修	新任部長研修(計4回)	33名
	新任課長研修(計5回)	63名
	新任係長研修(計8回)	106名
	ロジカルシンキング研修(計4回)	72名
計		361名

●グローバル人材マネジメント

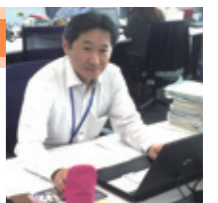
東洋製罐グループの海外拠点は、タイ、中国を中心に43カ所あり、131名の海外赴任者が活躍しています。海外事業のさらなる展開に向け、グローバルに活躍できる人材育成のために、従業員の語学研修のサポートや海外従業員の日本での研修を行っています。

海外拠点数 43カ所 / 海外赴任者数 131名					
国・地域別内訳	拠点数	赴任者数	国・地域別内訳	拠点数	赴任者数
タイ	8	56	ドイツ	2	5
中国	14	28	トルコ	1	4
インドネシア	3	10	台湾	2	3
マレーシア	2	8	フィリピン	2	3
アメリカ	4	8	その他	5	6

【対象】東洋製罐/東洋鋼鈹/東洋興業/日本クロージャー/東洋エアゾール工業/東洋製罐マテリアル・テクノロジー

TSGBC受講者コメント

TSGBCでは経営の定石を踏まえて、論理的に物事を進められるように、マーケティング、経営戦略、人的資源管理、組織行動学、企業会計、ファイナンスなどの知識を、各社から選抜されたメンバーとともに学ばせていただきました。社内での交流はもとより外部セッションで社外の方々や接することで、視野を広げさまざまな刺激を得るとともに、自身の思考の変化に気づき、受講前より成長していることが実感できました。メンバーとチームで取り組んだ他社分析・自社課題では、多様な価値観を持つメンバーと協力・意見交換することで、当事者としての意識を強く持つことができました。これからも受講仲間とともにグループの将来に貢献できるよう取り組んでいきます。



東洋興業 経営企画室 経営企画G 高橋 努



## グループ安全衛生活動

東洋製罐グループでは、全ての従業員が安全に安心して健康に働ける職場づくりを目指し、取り組んでいます。

### ●安全体感教育に新入社員が参加

日本クロージャー石岡工場では、2018年6月15日、日鉄住金ビジネスサービス鹿島株式会社（現：日鉄ビジネスサービス鹿島株式会社）主催の安全体感教育に新入社員が参加しました。さまざまな装置・設備などを使い、仕事中に起こりうる事故やけがを想定し、実際に挟まれ・巻き込まれなどを体験しました。また小牧工場では、安全作業の重要性を再確認するため、各部署から参加者が集まり機械を使った安全教育を行いました。実際に体感することで災害の未然防止に役立てています。



### ●熱中症対策講座

東洋ガラスでは、毎年5月と6月に講師を招いて、熱中症対策講座を実施しています。脱水症のメカニズムや症状、熱中症の予防方法や熱中症になった場合の対処法などをわかりやすくお話しいただき、熱中症の危険性などを改めて認識する機会となっています。



### ●AED講習会を実施

東罐マテリアル・テクノロジー本社・大阪工場では、2019年1月29日、30日に消防署の救急救命士を招いてAED講習会を実施しました。AEDの基本的な使用方法と心肺蘇生を含めた一連の救助の流れについて、実技を交えて体験しました。実際の現場に遭遇した時にどれほど冷静に対処できるか、心構えの意味からも貴重な体験となりました。今後も定期的に講習の機会を設け、緊急事態への対応力を高めていきます。



### ●年間無災害表彰

メビウスパッケージングでは、災害ゼロの取り組みの一環として「年間無災害表彰」を行っています。事業開始初年度の2018年度は、安全への地道な活動の結果、全事業所（茨城工場・川崎工場・摂津工場・泉佐野工場・五霞サテライト・神戸サテライト・本社・技術部）において、年間無災害を達成しました。今後も従業員が安心して働ける職場づくりを進めていきます。また、リスクマネジメントの強化によって製品の安定供給を図り、社会的責任を果たせるよう取り組んでいきます。



## その他の取り組み

### ●家族対象の本社ビル見学会

東洋製罐本社では、2018年7月25日に従業員の家族を対象とした本社ビル見学会を開催しました。当日は82名の家族が参加し、3Rを中心とした環境学習やビル内の環境施設ツアー、お父さんやお母さんが実際に働いている職場訪問など盛りだくさんのプログラムで楽しんでいただきました。最後にシーマー（巻締装置）でオリジナル缶詰を作り、お土産として持ち帰りました。



### ●アニュアルディナーを開催

TOYO-MEMORY TECHNOLOGY (TMT) は、2018年11月24日に恒例のアニュアルディナーを開催しました。カラオケ・コンペティション、ベスト・ドレス・ウィナー、くじ引き、年間5S表彰など多くのイベントが4時間以上にわたって行われました。今回も笑顔あふれる印象深いディナーとなり、TMTのメンバー全員が一つのファミリーとしてつながることができました。



### ●社員寮の建て替え

東洋ガラスでは、建物設備の老朽化対策など福利厚生施設の充実を図るため、千葉工場・滋賀工場の寮建て替えを行いました。おのおの寮の名称にはフランス語で「若さ・青春」を意味する「ジュネス」から、「ジュネス柏」「ジュネス湖南」と名づけられました。



### ●TSK FUTSAL CHAMPIONS CUP

2019年5月11日、東洋製罐本社をはじめとする7事業所（グループ会社各社の事業所含む）のサッカー部のメンバーが一同に集い、「令和元年TSK FUTSAL CHAMPIONS CUP」を開催しました。イベントには、総勢65名の競技者と家族が参加し、熱戦が繰り広げられました。部活動を通じたスポーツイベントによって、普段接点の少ない従業員同士の交流、心身のリフレッシュ、健康増進に繋がりました。





# 社会貢献活動

地域社会との共生を目指して、地域での交流を大切にします。

## 教育支援プログラムの作成

東洋製罐グループでは教育支援の一環として、中学生向けキャリア教育出前授業のプログラムを作成しました。グループ会社のどの事業所に依頼があっても同じ教材で対応ができるよう開発しています。「あなたがもし容器会社の開発者だったら」と題してグループワークを行い、現在の教育に不可欠なアクティブラーニングを実践しています。近隣の学校で検証授業を行った際には活気あふれる授業となり、手応えのある良いプログラムが完成しました。現在は、以前より小学生向けに行っていた環境出前授業の整備に着手しています。学校現場では企業の協力を必要としており、東洋製罐グループをあげて協力していきます。



## 豪雨義捐金拠出

東洋製罐グループは、「平成30年7月豪雨」の被災地における救援活動等にお役にいただけるよう、日本赤十字社を通じて、1,000万円の義捐金を寄付しました。また、東洋鋼板下松事業所の鉄心寮自治会および課長・係長クラスの従業員で構成される松飯会・鋼隆会は、下松市社会福祉協議会を通じ義捐金を寄付しました。これは、2018年7月28日に開催を予定していた第57回鉄心寮納涼祭を中止して拠出したものです。被災地の一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。



## 小学校の社会科副読本に掲載協力

東洋製罐埼玉工場は埼玉県比企郡吉見町にあります。この吉見町の小学校で使用している社会科副読本の内容が刷新されることになり、編集担当の教諭から地元産業の紹介ページに東洋製罐を掲載したい旨の申し入れがあり、取材に協力しました。



## TK WORKSフェスティバル2018

東洋鋼板では、2018年10月13日に恒例となった下松事業所開放イベント「TK WORKSフェスティバル2018」を開催しました。当日は晴天に恵まれ、家族連れを中心に約3,000名の皆さまがご来場くださいました。工場見学をはじめ、製品展示・科学体験・ちびっこ広場・お楽しみ広場・屋台など、さまざまな催しを楽しんでいただきました。また、昨年に引き続き行われたマジックショーや初めての試みとなった小・中学生ビンゴ大会、餅まきも大盛況となりました。



## 春秋2回の献血活動を継続

東洋エアゾール工業筑波工場では、毎年春・秋の2回、日本赤十字社の献血バスに会場してもらい、献血を実施しています。献血活動は筑波工場が設立された1987年12月から龍ヶ崎市献血推進協議会委員として、30年以上協力してきました。身近でできるボランティアとして一人でも多くの従業員に献血してもらえるよう、今後も献血の輪を広げる活動を推進していきます。



## 法科大学院からのエクスターンシップ受け入れ

東洋製罐グループホールディングスでは、2013年より毎年、法科大学院から1名のエクスターンシップ生を法務部に受け入れています。2018年度は、仮想取引先との契約内容の精査や仮想トラブル案件における契約・法律上の対応検討を通じて、企業法務の現場をエクスターンシップ生に体験していただきました。「企業法務における法律家の任務と責任」を経験する機会を提供することで、これからも優れた法曹の育成に貢献していきます。

## 小学生の工場見学を受け入れ

2019年1月15日に東京都調布市にある桐朋小学校の5年生73名が日本クロージャー平塚工場に来場されました。同校では社会科教育の一環として、関東周辺の工場訪問を行っており、今回はキャップという身近な製品を生産している工場ということでの来場となりました。当日は時間的な制約があったため、工場内を見学することはできませんでしたが、工場で生産しているキャップを実際に手にしながら、いろいろな容器の役割などについての説明に、生徒たちは熱心に聞き入っていました。今後もこうした工場見学を通じ、将来を担う世代に向けて包装容器への理解を深めてもらいたいと考えています。

## 環境絵日記展2018に出展

東洋ガラスでは、横浜市資源リサイクル事業協同組合主催の「環境絵日記展2018」に出展しました。当日は、「エコな容器ガラスびん」をテーマにガラスびんの3Rを紹介するとともに、子ども向け塗り絵ボトルのワークショップも開催しました。図柄を印刷したボトルに、ガラスに描けるペンで色を塗ってもらい、その楽しさを体験していただきました。



## しながわCSR推進協議会清掃活動に参加

東洋製罐グループは、品川区の企業で組織されている「しながわCSR推進協議会」主催の清掃活動に参加しました。この活動は企業と区が合同で行うことにより、社会貢献活動に対する従業員の意識啓発を図るとともに、協議会の活動を広くPRし、参加者相互の交流や地域への愛着を深めることを目的としています。今回は26事業所135名が参加し、目黒川・大崎駅・五反田駅の各周辺を清掃しました。区内の企業と協力して行う社会貢献活動の良い機会となりました。



## ラヨン県の植樹活動に参加

タイ政府関係者などとToyo Filling International (TFI) が入居する工業団地の運営会社がか呼びかけて、役所・入居企業・学校関係者による植樹活動が、2018年6月5日TFIのあるラヨン県ノーンプラーライ貯水池で初めて行われました。TFIも社会貢献の一環として参加し、総勢300名(TFIから4名参加)が1,500本の苗木を植えました。苗木はヤーンナーと呼ばれる東南アジアに広く分布する樹高30～50mの半落葉樹で、1月～2月ごろに赤紫の花が咲きます。



## 工場敷地の一部を近隣高校へ開放

東洋製罐マテリアル・テクノロジー九州工場では、工場敷地の一部を近隣の高校に開放し、部活動の場として活用いただいています。今後も場所の提供を通じて、地元の青少年の育成に貢献していきます。











## コンプライアンス

東洋製罐グループは、社会の信頼に応えるために、品格を重んじ、あらゆる事に日々公明正大に努めます。

### 2018年度の主な活動実績

国内グループ会社を対象に、以下の活動を実施しました。

#### ● 独占禁止法遵守体制の確立 (通年)

外部専門家の助力も得て、独占禁止法遵守体制をグループ全体で统一的に構築する取り組みを実施しました。

- 主要なグループ会社の全従業員が e-ラーニング「独禁法基礎編」を受講
- 「独禁法遵守カード」の常時携帯 (営業部門)
- 独禁法遵守にかかる誓約書の提出 (営業部門)

#### ● 「グループ企業行動憲章／企業行動規準」の制定 (通年)



冊子表紙

グループ共通の指標として「グループ企業行動憲章／企業行動規準」を制定し、冊子の配布等、全従業員への周知・展開に取り組みました。

\* 冊子の表紙のデザインは、東洋製罐グループで働く従業員一人ひとりの笑顔が続いていくことをイメージして作成されました。

#### ● グループ公務員等贈賄防止規程の制定 (9月)

国内外の贈賄防止に関する法令等を遵守すべく、グループ公務員等贈賄防止規程を制定しました。

#### ● グループコンプライアンス推進月間活動 (10月)

- グループ共通活動テーマに関する活動を実施
  - ① 独占禁止法の遵守
  - ② グループ企業行動憲章／企業行動規準の理解
- グループコンプライアンス研修会開催
- 倫理および法令遵守の誓約書提出

#### ● コンプライアンス情報の収集・発信 (通年)

グループ各社のコンプライアンス活動の様子や、社会で起きている事故事例の発信を通じて、グループ全体でコンプライアンス意識を高めていくよう取り組みました。

### 相談窓口

東洋製罐グループでは、コンプライアンス違反行為に関する通報や相談のため、社内の相談窓口のほか、社外にも「企業倫理ホットライン」と「セクハラ・人間関係ホットライン」の2つの相談窓口を設置しています。また、ポスターやセルフチェックカード等により社外相談窓口の啓発に努め、2019年度からは海外子会社にも内部通報制度を拡充していく予定です。

2018年度社外相談窓口相談件数 **107**件

### グループ内研修会

国内グループ会社を対象に、以下を含むさまざまな研修会を実施しました。

#### ● グループ新任役員法務研修会の開催 (6月、7月)

グループの新任役員に対して、6月5日と7月10日の2回にわたって、外部弁護士を講師に迎え、研修会を開催しました。

テーマ：取締役・執行役員の義務と責任 出席者 **51**名

#### ● グループコンプライアンス研修会 (10月)

グループ各社の役員に対して、10月9日、外部専門家を講師に迎え、グループコンプライアンス研修会を開催しました。



テーマ：コンプライアンスを基盤とする CSR 経営の要諦 出席者 **142**名

### 2019年度の主な活動計画

- 独占禁止法の遵守体制の維持・強化
- グループ企業行動憲章／企業行動規準の周知・実践
- グローバル内部通報制度の整備
- グループ公務員等贈賄防止規程の周知・徹底
- グループコンプライアンス推進月間活動



## リスクマネジメント

東洋製罐グループは、継続的な事業活動の実現、経営基盤の安定化のため、リスクマネジメントに取り組んでいます。

### 事業会社の取り組み

#### ● BCP訓練を定期的実施

東洋鋼鉄では、危機対策規程、事業継続基本計画等を策定し、定期的にBCP訓練を実施しています。2018年度は、表面処理鋼板生産ラインにおける火災発生を想定した防災訓練後、その被害状況を緊急事態とらえたBCP訓練を実施しました。今回の訓練では、これまでの課題を踏まえ、計画段階から訓練参加者に対して目的の共有を丁寧に行ったこと、また訓練シナリオに自由度を持たせたことから、緊張感のある訓練ができました。今後も不測事態を想定した訓練を継続的に実施することで、緊急事態への対応力を高めていきます。



#### ● 自動車・自転車安全講習を実施

東洋製罐マテリアル・テクノロジーの各事業所で、自動車・自転車の安全運転講習会を実施しました。2019年2月20日実施の本社・大阪工場では、動画教材を見ながら、シートベルト非着用の危険性や危険予知の方法、事故の原因と対策を学びました。講習を通じて、自動車・自転車・歩行者それぞれの見え方や死角について認識し、事故防止のためにお互いに配慮すべきこと、危険を予測しておくことの大切さを学びました。



#### ● 地震・大津波を想定した避難訓練を実施

2018年12月3日に日本クロージャー平塚工場・技術開発センター・金型センター合同で、東日本大震災と同様の地震、大津波が発生したことを想定した避難訓練を実施しました。訓練の内容は、最初に平塚地区で震度6弱の地震が発生。守衛所前の一時避難場所へ避難したのち、さらに大津波警報が発令されたため、工場5階の大会議室に避難するというものでした。

当日の参加者は293名と大人数でしたが、津波の到達目安の30分以内で避難を完了することができ、非常に有意義な訓練となりました。



避難中



避難完了



講評

#### ● 夜間避難訓練を実施

東洋製罐興業静岡工場では、マグニチュード8の地震を想定しての夜間避難訓練を実施しました。訓練実施日の前日にあたる9月30日に台風24号が直撃し、工場周辺や従業員宅を含む大規模停電が起きている最中での訓練実施となりました。暗闇の中で、防災倉庫に入っている発電機を実際に稼働させたりするなど、臨場感ある訓練となりました。





2018年度の主な活動内容

対象者	IR 活動
マスコミ アナリスト 国内機関投資家	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 決算説明会(中間・期末)</li> <li>● 事業説明会</li> <li>● 個別IRミーティング(31回)</li> <li>● 証券会社主催カンファレンス参加</li> </ul>
海外機関投資家	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個別IRミーティング(8回)</li> <li>● 証券会社主催カンファレンス参加</li> <li>● インバスターズガイドの発行</li> </ul>
株主	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 報告書の発行(中間・期末)</li> </ul>



報告書

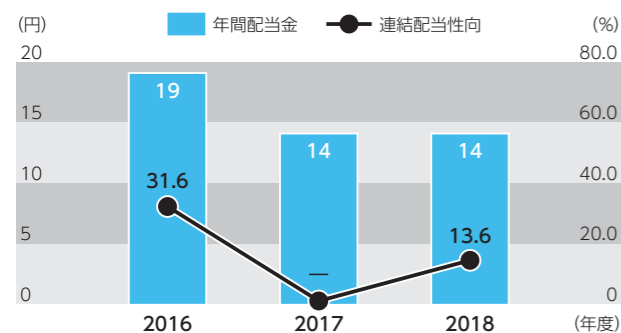


インバスターズガイド



決算説明会

配当金の推移

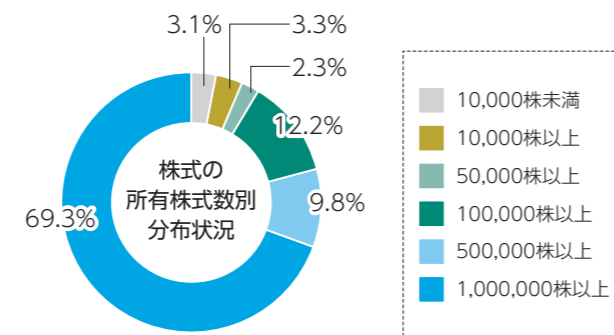
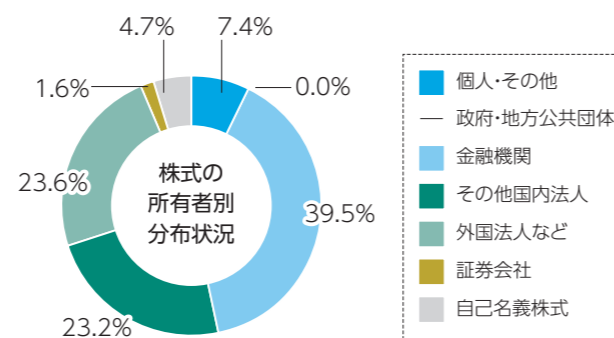


2016年度の配当金については、1株につき普通配当14円とし、これに創立100周年記念配当5円を加え、1株につき19円とさせていただきます。

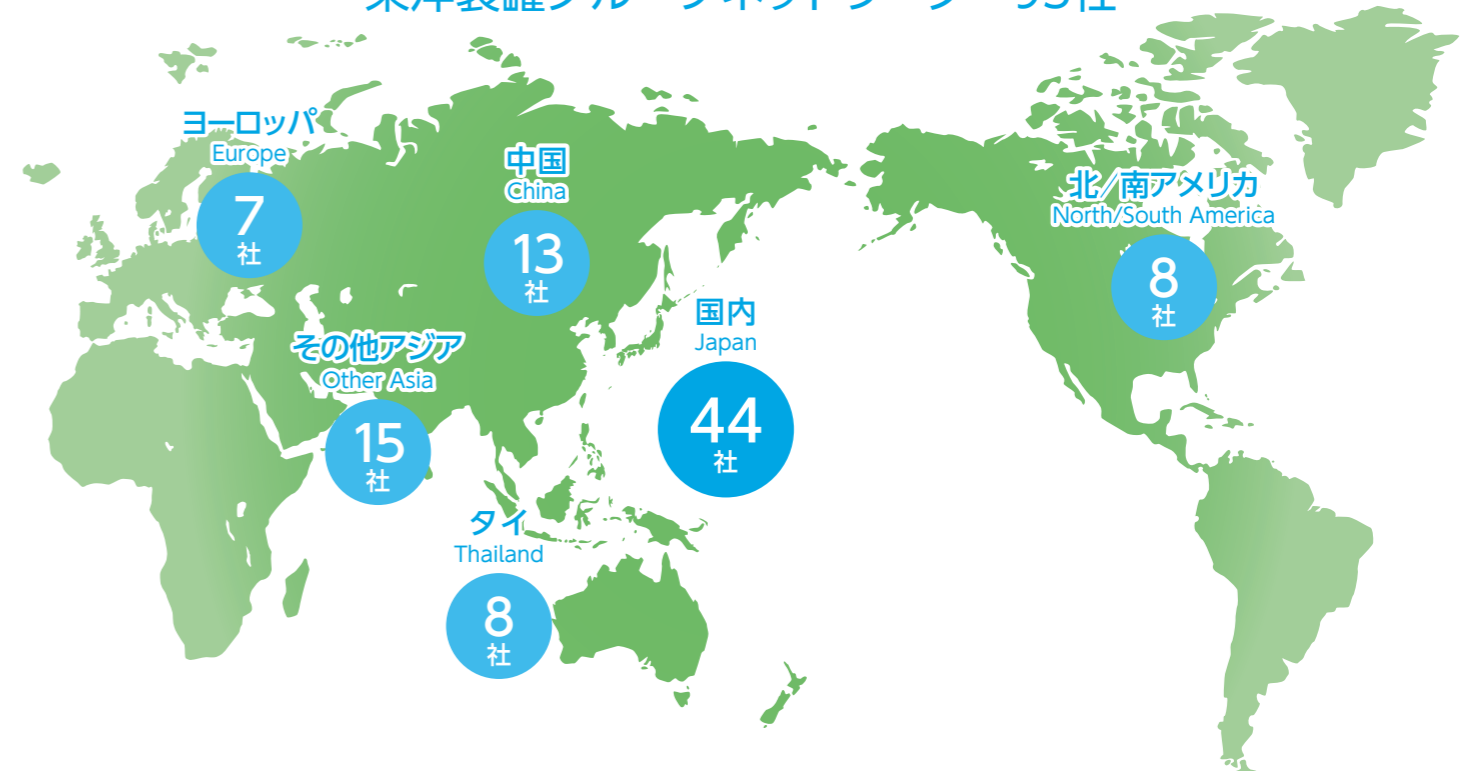
株式の状況

(2019年3月31日現在)

発行可能株式総数	450,000,000株
発行済株式総数	202,862,162株
単元株式数	100株
株主数	5,165名
上場取引所	東京証券取引所市場第一部 (証券コード 5901)



東洋製罐グループネットワーク 95社



2019年6月30日現在 ●：連結子会社

● 東洋製罐グループホールディングス株式会社

持株会社

● 東洋製罐株式会社

各種空缶・容器・充填設備の製造販売

● 本州製罐株式会社

18リットル缶、缶詰用空缶、美術缶の製造販売

● 日本ナショナル製罐株式会社

飲料用空缶の製造販売

● 琉球製罐株式会社

PETボトルの製造販売および各種空缶の販売

● 東洋製版株式会社

金属およびフィルム印刷用版の製造販売

● 福岡パッキング株式会社

金属・ガラスおよびプラスチック容器用シーリング剤(密封剤)の製造販売

● ティーエムパック株式会社

PETボトル入り飲料製品の受託充填事業

● 株式会社ジャパンボトルドウォーター

宅配水関連商材の製造販売

● 東洋製罐グループエンジニアリング株式会社

製缶機械、充填機械、包装機械、食品加工機械の製造販売および技術サービス等

● 東洋メビウス株式会社

貨物自動車運送業、倉庫業等

■ 株式会社T&Tエナテクノ

リチウムイオン二次電池を主とする電池用外装材の製造販売

● Bangkok Can Manufacturing Co., Ltd. (タイ)

アルミ2ピース缶・溶接缶・アルミ蓋の製造販売

● Next Can Innovation Co., Ltd. (タイ)

スチールおよびアルミ2ピース缶の製造販売

● Toyo Seikan (Thailand) Co., Ltd. (タイ)

プラスチック製品の製造販売、飲料用PETボトルの製造販売および受託充填事業、技術支援センター、グループ会社へのアドミニ業務

● Kanagata (Thailand) Co., Ltd. (タイ)

プラスチック製品用金型の製造販売

● Global Eco-can Stock (Thailand) Co., Ltd. (タイ)

樹脂被覆アルミ材の製造販売

■ Yangon Can Manufacturing Co., Ltd. (ミャンマー)

飲料用空缶の製造販売

● 東洋飲料(常熟)有限公司 (中国)

飲料用PETボトルの製造販売および受託充填事業

● Toyo Mebius Logistics (Thailand) Co., Ltd. (タイ)

貨物自動車運送業

■ Asia Packaging Industries (Vietnam) Co., Ltd. (ベトナム)

アルミ2ピース缶・アルミ蓋の製造販売

■ Asia Packaging Industries (Vietnam) Trading Co., Ltd. (ベトナム)

アルミ2ピース缶・アルミ蓋の販売



2019年6月30日現在 ●：連結子会社

- **東洋鋼板株式会社**  
ぶりき、薄板および各種表面処理鋼板並びに各種機能材料等の製造販売
- **株式会社富士テクノカ宮津**  
自動車用プレス金型および各種金型の製造販売
- **鋼板商事株式会社**  
鋼板類とその加工品の販売等
- **鋼板工業株式会社**  
帯鋼、結束機等機械器具、硬質合金等の製造販売および磁気ディスク用アルミ基板の製造
- **KYテクノロジーズ株式会社**  
建材製品および物流器材の製造販売
- **東洋パックス株式会社**  
梱包資材の製造販売、包装作業請負
- **共同海運株式会社**  
内航運送業、貨物利用運送業、通関業、代理店業
- **東洋パートナー株式会社**  
健保会館等福利厚生業務の請負
- **下松運輸株式会社**  
貨物自動車運送業、港湾運送業、通運業および倉庫業
- **TOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN. BHD. (マレーシア)**  
磁気ディスク用アルミ基板の製造販売
- **MIYAZU MALAYSIA SDN. BHD. (マレーシア)**  
自動車部品生産および金型の設計製造販売
- **上海東洋鋼板商貿有限公司 (中国)**  
鋼板関連商品、硬質材料、自動結束機等の販売および付帯サービスの提供
- **江蘇東洋鋼板新材料科技有限公司 (中国)**  
缶用ラミネート鋼板の製造
- **烟台富士宮津商貿有限公司 (中国)**  
中国国内における金型の受注・設計製作手配等の各種業務
- **烟台富士沃森技術有限公司 (中国)**  
車体用プレス金型および治具設計、NCデータ作成
- **富士瑞鶴技研(蕪湖)有限公司 (中国)**  
車体用プレス金型および治具設計、NCデータ作成
- **烟台三井富士汽車模具有限公司 (中国)**  
自動車部品生産および金型の設計製造販売
- **韓国鋼板工業株式会社 (韓国)**  
結束機等機械器具、硬質合金等の製造販売
- **Tosyali Toyo Steel CO. INC. (トルコ)**  
冷延鋼板および表面処理鋼板の製造販売
- **TOYO KOHAN AMERICA Inc. (アメリカ)**  
北米における事業会社の経営管理等
- **POLYTECH AMERICA, LLC (アメリカ)**  
北米におけるラミネート鋼板の開発および製造販売
- **FUJI TECHNICA & MIYAZU AMERICA INC. (アメリカ)**  
金型および車体技術設備受注仲介、受注品の金型設計・検査治具・プロトパネルの調達等
- **PT FUJI TECHNICA INDONESIA (インドネシア)**  
自動車部品生産および金型の設計製造販売

- **東罐興業株式会社**  
紙容器製品・樹脂容器製品の製造販売
- **日本トーカンパッケージ株式会社**  
段ボール製品・紙器製品等の製造販売
- **東罐興産株式会社**  
農業用フィルムの製造販売
- **東罐高山株式会社**  
紙容器製品、紙蓋製品の製造販売
- **東罐ロジテック株式会社**  
貨物自動車運送業、荷役作業請負業等
- **株式会社尚山堂**  
紙器製品の製造販売
- **サンナップ株式会社**  
紙および樹脂の簡易食器類等企画販売
- **志田紙工株式会社**  
樹脂製品および紙製品の製造販売
- **東罐(常熟)高科技容器有限公司 (中国)**  
樹脂製品の製造販売
- **TAIYO PLASTIC CORPORATION OF THE PHILIPPINES (フィリピン)**  
樹脂製品の製造販売
- **T.K.G. CORPORATION (フィリピン)**  
土地の賃貸
- **台灣東罐股份有限公司 (台湾)**  
紙容器製品の製造販売

- **日本クロージャー株式会社**  
金属・樹脂キャップの製造販売
- **新三協物流株式会社**  
貨物自動車運送業
- **Crown Seal Public Co., Ltd. (タイ)**  
金属・樹脂キャップの製造販売
- **日冠瓶盖(常熟)有限公司 (中国)**  
金属・樹脂キャップの販売
- **NCC Europe GmbH (ドイツ)**  
金属キャップの販売
- **PT. INDONESIA CAPS AND CLOSURES (インドネシア)**  
樹脂キャップの製造販売
- **NCC Crowns Private Limited (インド)**  
金属キャップの製造販売

- **東洋ガラス株式会社**  
ガラスびんの製造販売
- **東洋佐々木ガラス株式会社**  
ガラス製ハウスウエア製品の製造販売
- **東洋ガラス機械株式会社**  
ガラス・プラスチック容器用金型、機械の製造販売
- **東北硅砂株式会社**  
硅砂の製造販売
- **東硝株式会社**  
ガラス製品の販売
- **東洋ガラス物流株式会社**  
貨物利用運送業、各種構内作業請負
- **イチノセトレーディング株式会社**  
ガラス製品および附属品の販売

- **メビウスパッケージング株式会社**  
プラスチック製品の製造販売

- **東洋エアゾール工業株式会社**  
エアゾール製品・一般充填品の受託製造販売
- **Toyo Filling International Co., Ltd. (タイ)**  
エアゾール製品の受託製造販売
- **Toyo & Deutsche Aerosol GmbH (ドイツ)**  
エアゾール製品の製造販売

- **東罐マテリアル・テクノロジー株式会社**  
ガラスフリット製品、無機複合酸化顔料、ゲルコート、微量要素肥料等の製造販売
- **株式会社石川インキ**  
合成樹脂および印刷インキの加工並びに販売
- **多瑪得(上海)精細化工有限公司 (中国)**  
無機複合酸化顔料の製造販売
- **多瑪得(廈門)精細化工有限公司 (中国)**  
ガラスフリット製品の製造販売
- **TOMATEC America, Inc. (アメリカ)**  
無機複合酸化顔料、ガラスフリット製品の輸入販売
- **PT. TOMATEC INDONESIA (インドネシア)**  
ガラスフリット製品、無機複合酸化顔料の製造販売

- **Can Machinery Holdings, Inc. (アメリカ)**  
持株会社
- **Stolle Holdings, Inc. (アメリカ)**  
持株会社
- **Stolle Machinery Company, LLC (アメリカ)**  
製缶・製蓋機械に関わる開発・製造販売・各種サービス
- **Stolle Europe Ltd. (イギリス)**  
製缶・製蓋機械の販売・各種サービス
- **Stolle Machinery do Brasil Industria e Comercio Equipamentos Ltda. (ブラジル)**  
製缶・製蓋機械の製造販売・各種サービス
- **Stolle Asia Pacific Co., Ltd (ベトナム)**  
製缶・製蓋機械部品の販売・各種サービス
- **上海斯多里機械有限公司 (中国)**  
製缶・製蓋機械部品の販売
- **斯多里機械(広東)有限公司 (中国)**  
製缶機械部品の製造販売
- **Stolle EMS Group Limited (イギリス)**  
持株会社
- **Stolle European Manufacturing Solutions Limited (イギリス)**  
製缶機械の製造販売・各種サービス
- **Stolle EMS Precision Limited (イギリス)**  
製缶機械部品の製造販売
- **Stolle EMS Polska Sp. z o.o. (ポーランド)**  
製缶機械の製造販売・各種サービス

- **東罐商事株式会社**  
容器素材、石油・化成品、食品用機械設備・パーツ類などの販売

- **東罐共栄株式会社**  
損害保険代理業、生命保険代理業、不動産賃貸管理業、宅地建物取引業、旅行業